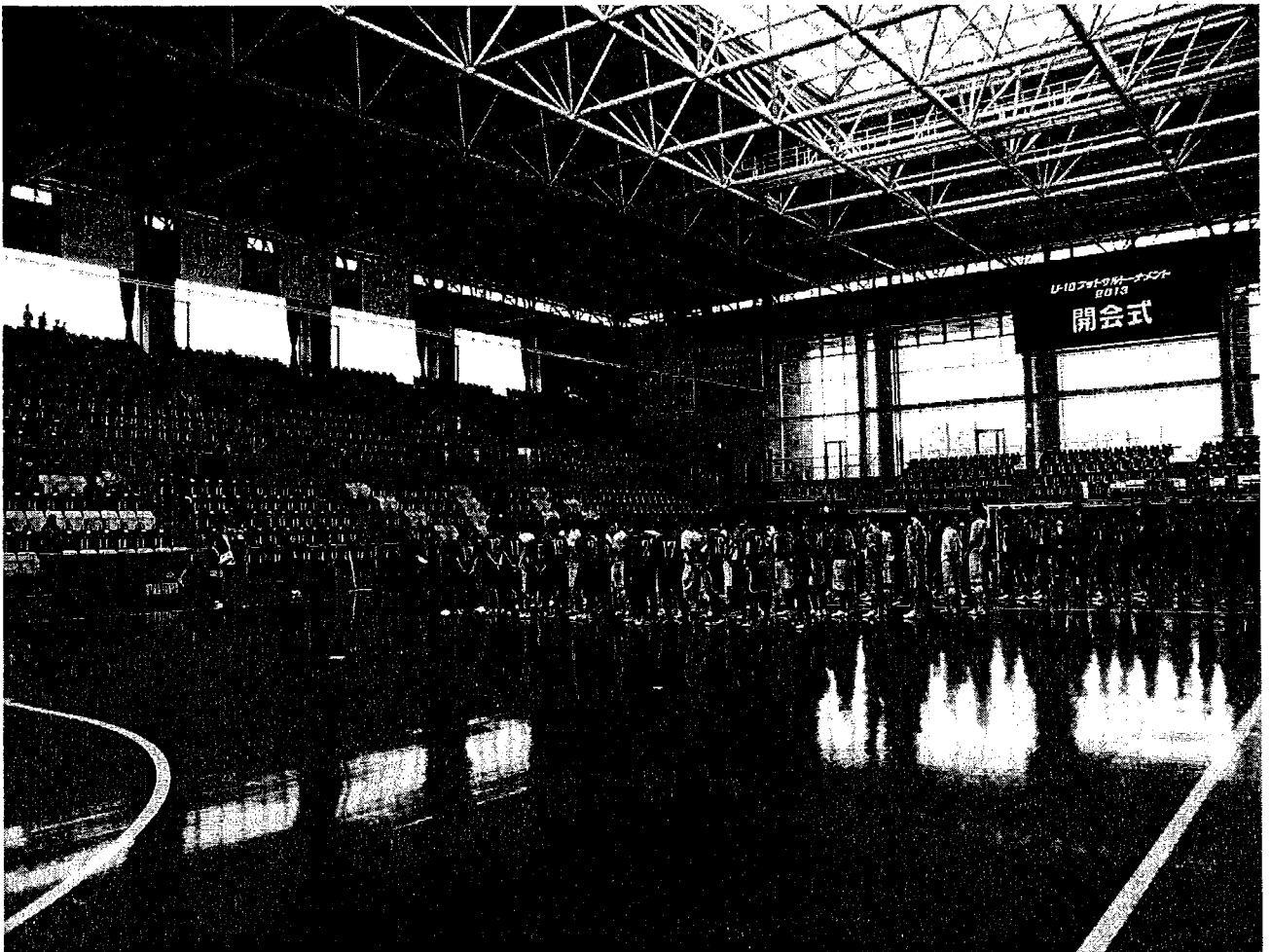


シンポジウム編



サロン2002 公開シンポジウム

「U-18フットサル」を語ろう！

「サロン2002」は、サッカーを中心にスポーツ文化を語り、21世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すことを“志”とする人びとのネットワークです。毎月の月例研究会のほか、2001年度より公開シンポジウムを毎年開催しています。本年度は標記タイトルで、U-18年代のフットサルを語るシンポジウムを企画しました。

近年急速な発展を遂げたフットサルでは、日本サッカー協会(JFA)主催でU-12、U-15(男女)、そして成年の男女の選手権が開催されていますが、U-18年代はJFA主催大会がなく、大会創設が望まれていました。そこで、昨年3月にオーシャンアリーナにおいて全国9地域からチームが集まり「サッカーキングカップ U-18フットサルトーナメント 2012」としてプレ大会が開催されました。

これを受けて、今年には日本フットサル連盟・産経新聞社主催、JFA後援で大会が行われます。この大会関係者を中心にU-18フットサルの現状と将来を語り合い、ビジョンを共有することを目指してシンポジウムを開催します。多くの方のご参加をお待ちしています。

(「サロン2002」の趣旨とこれまでの公開シンポジウムについては裏面に掲載しています)

記

主催：スポーツ文化研究会「サロン2002」

後援：産経新聞社、ほか(調整中)

協力：一般財団法人日本フットサル連盟

日時：2013(平成25)年3月30日(土) 17:30~19:30 (受付16:30~ 於1Fアリーナ受付)

会場：テバオーシャンアリーナ (愛知県名古屋市港区金城ふ頭2丁目7)

※同アリーナで行われる「U-18フットサルトーナメント2013」の試合後に開催します。

演者：松崎 康弘 (公益財団法人日本サッカー協会常務理事・フットサル委員長)

大立目 佳久 (一般財団法人日本フットサル連盟専務理事)

岩本 芳久 (熊本県サッカー協会フットサル委員長)

(コーディネーター兼)中塚 義実 (サロン2002 理事長/東京都サッカー協会フットサル委員/筑波大学附属高校)

参加申込：サロン2002HP トップページ(<http://salon2002.net/>)の、「インフォメーション」

「参加申込はこちら」(<http://salon2002.net/application/>)からお申込み下さい。

参加費：1,000円 ※18歳以下は無料(大会出場選手の参加を歓迎します)

事務局：高田敏志・本多克己 (サロン2002 理事)

※お問い合わせは salon2002@j-sps.com までお願いします。

※U-18フットサルトーナメント2013概要

- ・会場:テバオーシャンアリーナ(愛知県名古屋市)
- ・期日:2013年3月30日(土)、31日(日)
- ・主催:一般財団法人日本フットサル連盟、産経新聞社
- ・後援:公益財団法人日本サッカー協会ほか
- ・出場:10チーム

9地域(北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州)から1チーム
開催地(2013年は愛知県)から1チーム

＜スポーツ文化研究会「サロン2002」とは何か＞

「サロン2002」は、以下の設立宣言に賛同する「同志」によるゆるやかなネットワーク組織です。

サロン2002設立宣言

(2000年4月1日)

我々は、以下に「サロン2002の“歴史”」、「サロン2002の“志”」及び「サロン2002の“会員”」を述べることで、ここにあらためてサロン2002の設立を宣言する。

【サロン2002の“歴史”】

サロン2002は、社会学、心理学等の専門的立場からサッカーの分析・研究・報告に従事していた「社・心グループ」(財団法人日本サッカー協会科学研究委員会の研究グループの一つで、1980年代後半からこの名称で活動)を前身とし、1997年からは研究者という枠にとらわれない、幅広い人材によって構成されるゆるやかな情報交流グループ「サロン2002」として活動を行ってきた。

【サロン2002の“志”】

サロン2002は、サッカー・スポーツを通して21世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すことを“志”とする。年齢、性別、国籍、職業、専門分野、生活地域などを超えた幅広いネットワークを築き上げ、全国各地にサロン2002の“志”の輪を広げ、大きなムーブメントとなることを目指す。

サロン2002の“志”を実現する上で、2002年FIFAワールドカップ韓国／日本大会は大きな節目であると認識する。国内外の様々な人々と協力しながら、この世界的なイベントの“成功”に貢献するとともに、同大会後の“ゆたかなくらしづくり”のためにできることを考え、行動する。

【サロン2002の“会員”】

サロン2002は、前項の“志”を同じくする人たちのゆるやかなネットワークである。

サロン2002の“志”に賛同した個人であれば、誰でも、“会員”となることができる。ただし会員は、サロン2002からの“Take”を求めただけでなく、サロン2002に対して、また社会に対して何が“Give”できるかを常に考え、“Give and Take”の姿勢でいるということが前提である。

サロン2002は、会員に対して短期的な成果は求めない。長い目で見た“Give and Take”の関係が成り立っていればよい。即座のアウトプットが困難であっても、いずれ何らかの形で“Give”を考えている人なら“会員”となることができる。

2012年度の会員は、現時点で約180名。全国各地にいる会員は、小・中・高・大の学校関係者、Jクラブ・地域クラブの関係者、フットサルや草サッカーの関係者、新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどのメディア関係者、サポーターやボランティア、サッカー以外の競技の関係者など多様です。国や地方自治体のスポーツ行政に携わる者や、JFA、各都道府県FA関係者もいます。様々な形でサッカー・スポーツにかかわりながら、“志”を実現させようと活動する者で構成されるのが「サロン2002」です。

「サロン2002」の主たる活動は、月例会の開催と、その内容を核とするホームページの運営です。本シンポジウムは公開型月例会として毎年行われ、人と情報の行き交う場として定着しています。

詳細は、ホームページ <<http://www.salon2002.net>> をご覧ください。

＜サロン2002 公開シンポジウム＞

- 2001年度…FIFAコンフェデレーションズカップ総括
- 2002年度…FIFAワールドカップ総括
- 2003年度…地域で育てるこれからのスポーツ環境
- 2004年度…totoを活かそう!
- 2005年度…クラマーさん、ありがとう!
- 2006年度…2006年ドイツで感じたこと
- 2007年度…サッカー観戦を楽しもう! -スタジアム編
- 2008年度…地域からみたJリーグ百年構想
- 2009年度…2019年ラグビーワールドカップを語ろう!
- 2010年度…育成期のサッカーを語ろう!
- 2011年度…高校サッカー90年史を語ろう!

＜公開シンポジウム報告書について＞

本シンポジウムの内容は、後日、報告書にまとめ、サロン2002のホームページ上で公開します。主催者に無断で、個人のホームページ、ブログ等に掲載されぬよう、よろしくお願いいたします。

U-18フットサルを語ろう！

—U-18フットサルトーナメント2013開催にあたって—

演者：松崎 康弘（日本サッカー協会常務理事・フットサル委員長）
大立目 佳久（日本フットサル連盟専務理事）
岩本 芳久（熊本サッカー協会フットサル委員長）
中塚 義実（サロン2002理事長）＝コーディネーター兼

はじめに

中塚 義実（以下、中塚） ご紹介に与りました中塚と申します。

さて、先ほどまで“熱戦”が繰り広げられていたフットサルの戦いの場であるオーシャンアリーナのメインピッチは、今度は学びと語りの場になります。「U-18フットサルを語ろう！」というテーマで、大体2時間ほど、皆さんと一緒にディスカッションしていきたいと思います。

多くの方にお残りいただけたらよかったです、多くの方が帰ってしまいました（苦笑）。ちなみに、高校生はどれくらい残ってくれていますか？ はい、ありがとうございます。われわれとしては、次の世代の人たちに是非話を聞いてもらいたいと思っていたので、皆さんが次の世代の生き証人として、今日学んだことを活かし、次に繋げていってもらえればと思います。

開会式での大立目さんの挨拶にもありましたが、今大会は、歴史的に重要な大会だと思います。ただ、これを一過性のものに終わらせてしまうともったいないので、「大会の意義」や「現在に至るまでの経緯」、それから「どのようにしていったらいいのだろうか」ということを共有しようということで、この場を設けました。

この会を企画した主催団体の「サロン2002」に関しては、お手元のA4判裏表の資料があると思います。ここでは細かくは述べませんが、「サッカーやスポーツを通して“ゆたかな暮らし”を作っていこう」という共通の“志”を持つ人たちの全国ネットワークです。年1回、このようなシンポジウムを開いております“志”に賛同する方ならどなたでも会員になることができますので、是非一度ホームページを覗いてみてください。

さて、いまMCの方からご紹介がありました演者の方々は、それぞれフットサルに対して責任ある立場をお持ちの方です。まずはお三方に、それぞれ自己紹介を兼ねながら「2012年度のフットサルと私」というような感じで、松崎さんから順にコメントをお願いします。

松崎 康弘（以下、松崎） 2012シーズンは、正確には今日で終わると思いますが、何といても日本のフットサル代表がW杯でベスト16の11位に入ったことが印象に残っていますね。

私が最初に日本のフットサル代表と関わったのは、1999年の第1回AFCフットサル選手権です。その時私はレフェリーとして参加しましたが、そこから日本フットサル代表をよく見てきています。2000年のグアテマラ大会の予選ではアジアを勝ち抜けませんでした。2004年の台湾の大会で初めて予選を勝ち抜いて出場しましたが、その時は1勝もできませんでした。2008年はようやく2勝したけれど、ファーストラウンドを勝ち抜くことができませんでした。そして、昨年は、テレビで見た方もいらっしゃると思いますが、昨年のW杯ではポルトガル戦でのパワープレーからの同点劇も含め、素晴らしいフットサルが展開できました。ここはものすごく印象的でした。日本代表はこれからもっと強くなると思いますが、まずはその先駆けになったのかなと思います。

もう1つ、PUMA CUPと呼ばれる全日本フットサル選手権では名古屋オーシャンズが優勝しました。しかしその名古屋オーシャンズを最後の最後まで苦しめたのが、東京の「フウガすみだ」という、Fリーグに入って

いないチームでした。これは日本のフットサルのレベルが、トップだけではなく、その下のリーグでも素晴らしいものになっているということをもものすごく感じさせてくれました。そういった素晴らしい2012シーズンだったと思います。

大立目 佳久 (以下、大立目)

私は日本フットサル連盟の仕事をしていて、いろいろな大会を運営しているのですが、Fリーグのマッチコミッショナーという仕事もやらせていただいています。今年度は、松崎さんが言われましたように、Fリーグでは名古屋オーシャンズが優勝しました。昨年までは名古屋が割と早い段階で優勝を決めてしまうことがあったのが、今年からプレーオフ制度を導入し、最後の最後までもつれるという展開になりました。目標だった25万人の観客動員というのも達成できましたし、最後のシュライカー大阪とのゲームはすごい試合ができたかなと思っています。

それから、連盟の仕事として、全国選抜大会や女子の選抜大会、そして地域リーグのチャンピオンを決める大会等の運営もやらせていただいた中で、今年は関東や関西のチームが元気良かったという印象を持っています。

▼ Fリーグ2012 powered by ウイダーinゼリー Charge→Go プレーオフ 最終順位

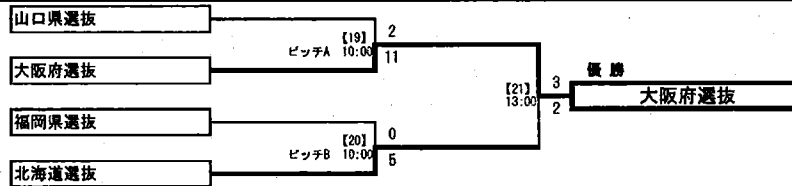
優勝：名古屋オーシャンズ(5年連続6回目)
準優勝：シュライカー大阪(2年連続2回目)
第3位：府中アスレティックFC(初受賞)

▼ 順位表

順位	チーム	試合	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失差
1 →	名古屋オーシャンズ	75	27	24	3	0	142	53	89
2 →	シュライカー大阪	53	27	16	5	6	91	50	33
3 →	府中アスレティックFC	47	27	15	2	10	78	65	13
4 →	パルドラール富安	44	27	13	5	9	85	67	10
5 →	テウソン神戸	42	27	12	6	9	80	64	16
6 →	エスポラーダ北海道	40	27	11	7	9	76	88	-12
7 →	バザシズ大分	34	27	10	4	13	62	65	-1
8 →	バスカドーラ町田	25	27	6	7	14	66	88	-22
9 →	城南ベルマーレ	14	27	3	5	19	72	114	-42
10 →	アグレミーナ浜松	8	27	2	2	23	45	137	-92

JFF主催大会結果

【決勝ラウンド】 9月17日(月・祝)



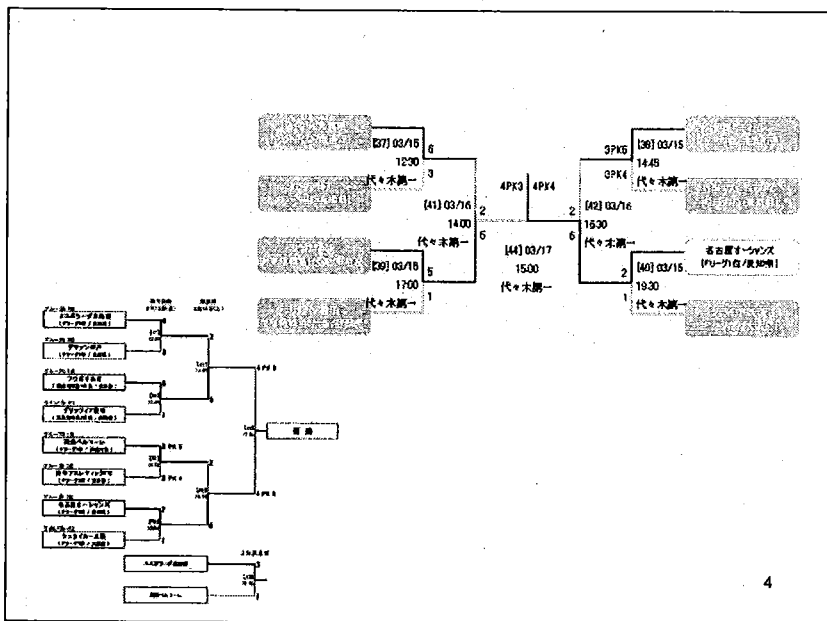
トリムカップ2013 第5回全国女子選抜フットサル大会 決勝ラウンド

節数/回戦	試合日	試合会場	キックオフ	対戦カード	結果	※アウェイ
準決勝	2013/03/24 (日)	大阪市中央体育館	09:45	東京都選抜	1 - 5	兵庫県選抜
準決勝	2013/03/24 (日)	大阪市中央体育館	09:45	大阪府選抜	1 - 2	静岡県選抜
決勝戦	2013/03/24 (日)	大阪市中央体育館	13:30	兵庫県選抜	4 - 1	静岡県選抜

第13回FUTSAL地域チャンピオンズリーグ 決勝ラウンド

節数/回戦	試合日	試合会場	キックオフ	対戦カード	結果	※アウェイ
準決勝	2013/02/24 (日)	テノオーシャンアリーナ	10:00	fun@beln KYOTO	3 - 4	MIKIHOUSE Futsal Club
準決勝	2013/02/24 (日)	テノオーシャンアリーナ	11:50	フウカすみだ	2 - 1	MEMBER OF THE GANG
決勝戦	2013/02/24 (日)	テノオーシャンアリーナ	15:00	MIKIHOUSE Futsal Club	4 - 11	フウカすみだ

最後に、本年度の一般の方の締めくくりとなるPUMA CUPで、先程も言われましたが、フウガと名古屋が本当にすごい試合をしてくれました。マッチコミッショナーをしながら、「どっちが勝つんだろうか？」というゲームを、純粹に1人のファンとして楽しめるようなゲームが展開され、そこに地域リーグのチームが出てきてくれたこともあって、私にとっては非常に嬉しい1年間の締めくくりとなりました。



岩本 芳久 (以下、岩本) こんにちは。私はお二人とは違って、地方の

県協会のフットサル委員長という役職にあります。この場にはフットサル委員長とフットサル連盟というようにお二人がいらっしゃいますが、県の方でもフットサル連盟とフットサル委員会があり、大会やリーグの管轄が別々になっています。私が担当しているのは委員会なので、九州大会や全国大会などに繋がる大会のコントロールをやるというのが私の仕事です。具体的には、大学選手権や女子の大会、バーモントカップ（全日本少年フットサル大会）やU-15の大会などがわれわれの管轄です。

あと、PUMA CUPでは、九州大会を熊本県のフクエイ・ジャパンというチームが勝ち抜きまして、本大会に2年連続出場できたことは、熊本としては嬉しい結果を残してくれたと思っています。地方の県協会ではリーグと普通の大会とごちゃごちゃになってやっている県が多いかと思いますが、熊本県はリーグと他の大会というように別々に担当を分けてやらせていただいています。

中塚 ありがとうございます。

いま自己紹介していただいた3名の演者とこのシンポジウムを進めていくわけですが、まずはスライドをみながら、このシンポジウムのねらいと進め方を確認しておきたいと思います。

「参加者が「U-18フットサル」の意義を感じ、次のアクションにつなげる」ということがねらいです。具体的には、ここで得たものをそれぞれの地域へ持ち帰って、それぞれの地域でいろいろ展開してもらおうというようなことですが、そのために「歴史を共有しよう」、「大会の意義を共有しよう」、「課題を共有しよう」というのが、シンポジウムの内容になります。

ということで、まず「U-18フットサルの“これまで”」、そして「U-18フットサルの“いま”」、「いま」というのはまさに、いまやっているこの大会は何なのかということです。そして「U-18フットサルの“これから”」です。特にこの“これから”という部分は、会場の皆さんと意見交換をしていきたいと考えています。このような三部構成でこの後進めてまいります。

シンポジウムのねらいと進め方

【シンポジウムのねらいと内容】

参加者が「U-18フットサル」の意義を感じ、次のアクションにつなげる。そのために、

- 1) 歴史を共有する
 - 2) 本大会の意義を共有する
 - 3) 課題を共有する
- ことを内容に盛り込む。

【シンポジウムの進め方】

1. 「U-18フットサル」の“これまで”
2. 「U-18フットサル」の“いま”=本大会の位置づけと意義
3. 「U-18フットサル」の“これから”

I. U-18フットサルの“これまで”

1. 日本におけるフットサルの普及

中塚 それでは早速「U-18 フットサルの“これまで”」ということで、歴史を振り返りますが、すごいところからこの話は始まります。

フットサルの誕生の前にFA創設です。1863年のイングランド。それまで様々なフットボールが各パブリック・スクールで行なわれていたのを、「これからフットボールはこういうふうにするよ」ということで統一ルール、統一組織「The Football Association (FA)」ができたのがこの年です。そして1904年、日露戦争開戦の時に国際サッカー連盟 (FIFA) が創設され、「W杯をやりましょう」というような話が始まっているわけです。そして1930年に、第1回FIFAワールドカップが開かれます。皆さんご存知の通りです。

世界各地にミニ・サッカーはありました。11人対11人でやる正式のサッカーだけでなく、10人集まったら5対5で、6人だったら3対3でと、遊びとしてのミニサッカーは世界各地で行われます。また、雪と氷に閉ざされた地域であれば屋内でというように、ミニ・サッカーは世界各地で、さまざまな形で行われていました。

組織的には、当初はFIFAとは別組織で、少人数のサッカーが統括されていたのですが、FIFAが「ファイブ・ア・サイド」という形で世界選手権を始め、1994年にはFIFAが、「ファイブ・ア・サイド・フットボール」を「フットサル」という名称に変更します。それを受けて日本サッカー協会は、それまであったミニ・サッカー委員会を「フットサル委員会」に変更しました。

このあたりで松崎さんが随分、関わられたとお聞きしたのですが。

松崎 私はミニ・サッカー委員会のメンバーだったのですが、競技の名称が変わったことで「ミニ・サッカーからフットサル委員会にしましょう」と提案し、そこからフットサル委員会という名称になりました。

確かにFIFAはフットサルという言葉も1994年から使い始めましたが、もともと1930年にFIFAワールドカップがウルグアイで開かれ、そのころ、ウルグアイではもうフットサルの原型が始まっていました。はじめはFIFUSAと略する「国際フットサル連盟」というところが担っていたのですが、FIFAはこれらの室内ミニサッカーを基に1989年にファイブ・ア・サイドのルールを制定しました。FIFA自らやるということがどういうことかという、サッカーでもそうですが、フットサルが大きく発展する要因となり、非常に大きく貢献していると思います。そういう意味で、FIFAが1994年にファイブ・ア・サイドからフットサルという名前に変えたことは非常に大きな意義があったと思います。

中塚 ありがとうございます。松崎さんはずいぶん昔から関わっておられたわけですね。

その翌年の1995年に、日本サッカー協会が各都道府県にフットサル担当者を置くよう指示しました。その後、各都道府県にフットサル委員会が順次立ち上がっていきます。

私がフットサルへ関わるようになったのは、東京都でフットサル委員会ができた最初の頃からです。高校生年代からも委員を出さないといけないこととなり、私は高体連のサッカーの方に関わっているのですが、その

「フットサル」の誕生

- ◆1863年 FA創設 ...近代スポーツとしてのサッカーの誕生
 - ◆1904年 FIFA創設 ...世界のサッカーの統括団体
 - ◆1930年 第1回FIFAワールドカップ開催
 - 世界各地に「ミニサッカー」があった**
 - ◆1989年 第1回ファイブ・ア・サイド・フットボール世界大会
 - ◆1994年
FIFAが、「ファイブ・ア・サイド・フットボール」を「フットサル」に変更
JFAが、「ミニサッカー委員会」を「フットサル委員会」に変更
 - ◆1995年
JFAが、各都道府県に「フットサル担当者」を置くよう指示
3つの全国大会を開催
 - ・全日本少年フットサル大会(既存の大会)
 - ・全日本ジュニアユースフットサル大会(新設)
 - ・全日本フットサル選手権大会(16歳以上)(新設)
- *U-18年代は当初から、大人のカテゴリーに含めて考えられていた

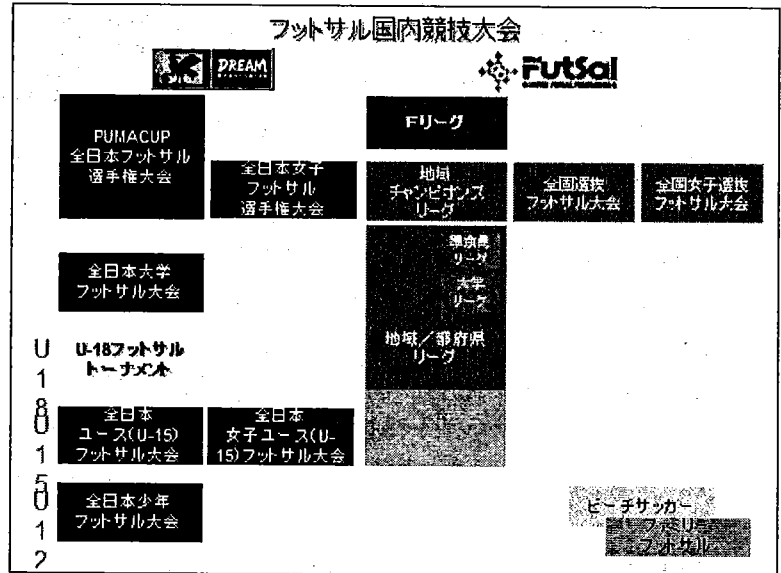
頃の東京都高体連サッカー専門部の委員長から「じゃあ、中塚やってくれ」と言われまして、私もこの頃から関わっています。

フットサル担当者を置くように指示があったのは、全国大会を開こうという動きが背景にありました。

全日本少年フットサル大会というのは、それまでミニ・サッカー大会と言われていたのを、名称変えたものです。いまのバーモントカップですね。そしてこの時に新設されたのが、ジュニアユースフットサル大会、いまのU-15フットサル大会と、全日本フットサル選手権、いまのPUMA CUPです。この2つの大会がこの時に新設されましたが、その狭間の年代であるU-18については、大人のカテゴリーに含めて捉えられ、大会はありませんでした。それが今日まで続いているということです。

大立目さんからこの辺りの補足をしていただけますか。

大立目 現在、フットサル連盟や、フットサル委員会が管轄している大会が、PUMA CUP 全日本フットサル選手権に始まり、女性は全日本女子フットサル選手権、大学の大会、そして地域や都道府県のリーグ戦があって、そのチャンピオンを決める地域チャンピオンズリーグや都道府県の選抜チームが争う全国選抜大会、そして日本最高のリーグであるフリーグというのができてきたわけですね。さらに、先程話があったU-15のジュニアユースフットサル大会、U-12の全日本少年フットサル大会というのも含めた全国



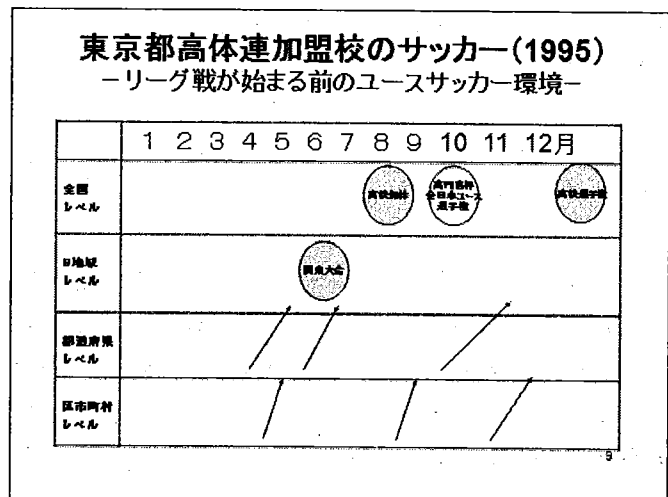
大会が現在行なわれているわけです。ただ、U-15の上のカテゴリーがない状態で、U-18は大人のカテゴリーに含まれていました。ちょうどU-18のところ为空いてしまっていますが、「そこに1つ大会を作っていないとダメなんじゃないか」という動きがいまあるのです。

中塚 ということで、フットサルがどういう歩みで今日の日本に広がっているのか、そしてなぜU-18が欠けていて、なぜこの大会に意味があるのかというのが、このスライドで明らかになったのではないかと思います。

2. サッカーにおけるリーグ戦創設への経緯

中塚 ここから、少し違った視点から振り返ってみたいと思います。半分プライベートな話になるかもしれませんが、先程も言いましたが、私は1995年から東京都サッカー協会のフットサル委員になりました。ですが、私自身は筑波大学附属高校のサッカー部顧問として11人制のサッカーの指導をしています。いまもそうです。

この図を見てピンと来る方もおられるでしょうが、今でこそサッカーのリーグ戦が全国各地に定着していますが、リーグ戦が生まれる前のサッカー環境はこのような感じでした。東京都高体連加盟校の状況を図で示したものが



ですが、全国大会がインターハイと正月の選手権があります。もう一つ、9地域レベルの関東大会があって、そ

れぞれに予選があるわけですね。予選は大体、負ければ終わりのノックアウト方式です。ですから、年3回の大会でいずれも一回戦で負けると、公式戦は3試合しかないということになります。しかも、高体連の大会は1つの学校から1チームです。部員数が多い場合、試合に出られない補欠が生まれるわけです。1年補欠、2年でレギュラー、3年で“引退”という流れをやっていると、サッカーの公式戦はほとんど経験できないような状況で3年間過ごすわけです。

世界のフットボールの歴史を見ても、カップ戦、すなわちノックアウト方式の大会で競技人口を増やし、人気を得ます。しかし、それが本当に人々の生活に定着していくためには、リーグシステムの導入が必須です。リーグがないと自分たちにもなっていないのです。イングランドのフットボールを見ると、1871年のFAカップ開催によってFAルールがイングランド中に広まり、人気も出てきます。でも、本当に人々の日常生活に定着するのは1888年のフットボールリーグ創設です。ホーム・アンド・アウェイの2回戦総当たりのリーグ戦では、2週に1度はホームゲームがあります。こうして地元の人たちの生活に定着し、地域とともに盛り上がる環境が整うのです。リーグ戦によってスポーツが、プレーヤーだけでなく、その地域住民も含め定着していくわけです。

リーグ戦とカップ戦の違い

カップ戦	リーグ戦
ノックアウト方式 (負ければ終わり)	総当り方式 (負けても次がある)
短期間	長期間
シーズン中の単発イベント	シーズンそのものを形成
非日常的な行事	日常生活の一部
移動をとまなう	生活圏で行なわれる
主催者が運営	当事者による自主運営

3. DUO リーグの創設と U-18 フットサル大会
中塚 高校生の生活にもサッカーをしっかりと定着させていくためのリーグシステムが必要じゃないかというのが、当時から問題意識としてありました。そして1996年から、東京都の文京区、豊島区でユースサッカーリーグを始めました。その名称が「DUO リーグ」です。右に示す“理念”を実現するためにリーグ戦をやるんだということです。それは、試合数を確保するだけでなく、理念に掲げる「歯磨き感覚・引退なし」「補欠ゼロ」「レベルアップ」そして「自主運営と受益者負担」といったことを通して、クラブを育てていく試みです。

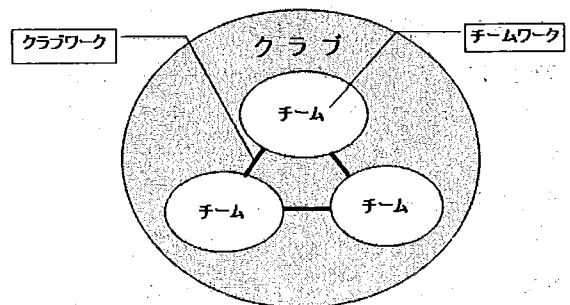
では“クラブ”とは何か。しっかりと言葉を整理しておかなければいけません。ゲームを行なう単位は“チーム”です。Aチーム、Bチーム、Cチーム、少年チーム、中学生チーム、高校生チームという感じです。学校の運動部は、たいていの場合、最終学年になると追い出されるので“チーム”しかありません。なかなか“クラブ”にはなりません。それを「引退なし」にすれば、卒業生もメンバーとして残り、“クラブ”になっていくわけです。とにかく複数のチームが出られる“クラブ”をリーグを通して育てて行こうと

DUOリーグの理念

—文化としてのサッカーのあり方—

1. 「歯磨き感覚」「引退なし」のスポーツライフ
サッカーの生活化
2. 「補欠ゼロ」のゆたかなクラブ育成
チームからクラブへ
3. 強いチームとたくましい個の育成
レベルアップ
4. サッカーをささえる人材の育成
自主運営と受益者負担

「チーム」と「クラブ」は異なる

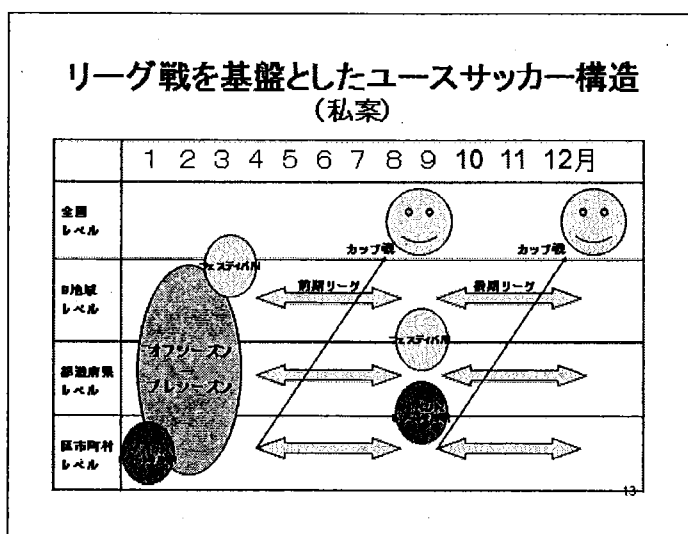


いう意図でDUO リーグを始めたわけです。

リーグのある年間スケジュールのイメージは図にあるようなものです。サッカーの観点から言うと、レベル別のサッカーのリーグ戦が、例えば学校でいう1学期と2学期に展開されています。そうすると、学校でいう3学期はオフシーズンやプレシーズンになっていくわけですね。そしてその合間に、例えば高体連やクラブユース連盟のカップ戦があるというようなイメージです。

一方、私はフットサルに関わっていますので、この時思っていたのは、「それじゃあフットサルの大会はどこまでできるかな」ということです。それがオレンジ色で書かれている部分です。「オフシーズンなら、サッカーをやっている人たちもフットサルに取り組むことができるだろうな」。ここに設けることで、サッカーに取り組む人にもオフシーズンにはフットサルをやってもらうことができます。さらに「前期リーグと後期リーグの間の夏休みは、サッカーをやっている人には（サッカーの大会があるから）難しいだろうけど、それ以外を対象にできるかもしれない」。フットサルの普及を目的とした競技会ができるかもしれません。

このようなイメージを、まずサッカーの観点からフットサルへの取り組みを考えてみたわけです。



4. 東京都におけるU-18フットサル大会の創設

中塚 そうこうしているうちに、別の話が出てきました。これも東京都の話です。フットサル委員会にはいろいろな種別の人が集まっているわけですが、そこで自由に議論していた時に、ある人がこんなことを言いました。

「都内の民間フットサル施設で高校生がたくさんプレーしているよ」と。2000年度末のことでした。私も、1998年のW杯フランス大会に日本が初出場して以来、部活に入っていない高校生の「昼休みサッカー人口」がものすごく増えてきたなと感じていました。東京都内の各校で似たようなことが起きており、それが民間のフットサル施設に流れているのを聞いていました。潜在的なフットサル人口があるということです。中身をもう少し見てみると、サッカー部が嫌で辞めた人たちが、サッカー部とは違うところで体を動かしたいので、民間の施設に行っていたというのが随分あったようです。

それから、いくつかの学校ではフットサル同好会ができていますね。後でも紹介しますが、筑波大学附属高校サッカー部にもフットサル部門ができました。さらに、この学校では、サッカークラブの主催で校内のフットサル大会までやっている。つまり、学校の中のフットサルは、仕掛ければ広まるというのを非常に感じていました。

また一方で高体連サッカーの観点で言うと、部員数が減ってきて、公式戦に参加できないところが増えてきました。「11人揃わない

東京都における
U-18フットサル大会創設の経緯
それは2000年度末、フットサル委員会の議論から始まった

- ◆「都内の民間フットサル施設で、高校生が大勢プレーしている」
↳ 潜在的なフットサル人口の存在
- ◆「いくつかの学校ではフットサル同好会ができています」
・筑波大学附属高校サッカー部に「フットサル部門」創設(1997)
・同校において校内フットサル大会(TFC杯)開始(1998)
↳ 学校におけるフットサルの可能性 ↳ 仕掛ければ広まる!
- ◆「高体連のサッカー大会で、
人数不足により参加できないチームが増えてきた」
↳ 11人は無理でも5人ならサッカーとの共存・共栄

★2001年度事業として、夏にU-18フットサル大会を開催しよう!
★「東京都ユース(U-18)サッカーリーグ(仮称)」と連動させよう!

ので、今大会の出場を辞退します」というのが、都内ですと、結構あるんですね。もしかすると、地方でもあるかもしれません。11人は無理でも、5人ならできるかもしれません。

こうした背景から、サッカーとの共存共栄も考えつつ、2001年度事業として、東京都サッカー協会主催でU-18フットサル大会をやってみようということになりました。サッカーの方で展開しているリーグと連動させながら、サッカーリーグのオフシーズンにフットサルの大会を位置づける動きを始めたわけです。

そして2001年度の夏に、第1回東京都ユースフットサル大会を開催し、これが好評だったので冬にもやろうということになり、大会の名称を東京都フットサルチャレンジに変えてやってみたわけです。その翌年度は大会の名称を夏と冬で入れ替え、年2回の大会を実施しました。冬の大会はU-15も同時開催とし、U-15とU-18の両方のカテゴリーを持っているクラブも参加しやすくなりました。いずれも、参加側のチームからすると二日間だけの短時間の競技会だったので、こういうのを始めて、現在に至るわけです。

ここまでの話とは全然関係ありませんが、松崎さんとの出会いもこの前後のような気がしますが（笑）。

松崎 私と中塚さんが初めて会ったのは、2000年にJFAでフットサルの競技規則と審判法というビデオを作った時です。ワールドカップのときにグアテマラに行ってそのビデオを配り、「日本ではこれだけフットサルをやっているんだよ」というのを宣伝しました。そのビデオを作るに当たって、筑波大学附属高校の体育館をお借りしたのです。大抵の体育館では中でボールを蹴ってはいけないようになっていっていましたが、中塚先生のようにフットサルに理解のある先生がいるところでは、「壁も全然壊れないし、屋内でもボールを蹴ってもいいんだよ」という認識が浸透します。やはりそういう人が東京などでU-18の高校生の大会やリーグをやってくれることが推進力になるのではないかと思います。

中塚 今日、会場に来てびっくりしたのは、そのビデオに出ていた方々と再会できたことです。2000年に作られたフットサルのルール紹介ビデオは、当時の筑波大蹴球部員にエキストラとして出てもらったのですが、今大会で愛知県代表として出場されている松蔭高校の酒向監督が、大学生の時にそのビデオに出演されていたそうです。その頃の思い出など話していただけないでしょうか。聞くところによると、筑波大でチームを作って大会にも出場していたらしいですね。

酒向 そうですね。その前年に自分たちでチームを作ってフットサルの大会に出て、全日本フットサル選手権の決勝まで行き、FIRE FOXに負けたということがありました。その翌年にフットサルのビデオを作るということで、出演した覚えがあります。

中塚 今でいうPUMA CUPですね。松崎さんがその試合のレフェリーをされていたそうです。この頃、筑波大学附属高校の体育館はできて間もない頃で、そこにスポーツ・コートを敷き詰めて撮影したのを覚えています。

東京都FA主催 U-18公認フットサル大会(最初の2年間)

■2001年度

夏...第1回東京都ユース(U-18)フットサル大会

- ・初心者でも参加でき、最後まで楽しめる競技会に!
- ・「第51回 社会を明るくする運動」事業として開催

冬...第1回東京都フットサルチャレンジ(U-18)

- ・サッカークラブも、オフシーズンのトレーニングとして参加
- ・将来的には、真のフットサル東京一を決する競技会へ
- ・スケジュール問題と会場確保の問題

■2002年度

夏...第2回東京都フットサルチャレンジ(U-18)

- ・名称と大会の趣旨を合致させる

冬...第2回東京都ユース(U-18)フットサル大会

- ・U-15、U-18同時開催により、ユース年代の交流促進!
- ・判定に対するトラブル続出!
- ・学校教育活動か、地域のスポーツ活動か

15

松崎 先程、高校生年代は大人のカテゴリーに入っていたということですが、旭川実業の高橋健介（現・パルドラール浦安）はPUMA CUPの前身の全日本フットサル選手権に出ています。ですから、高校生も大会に出ているわけですね。

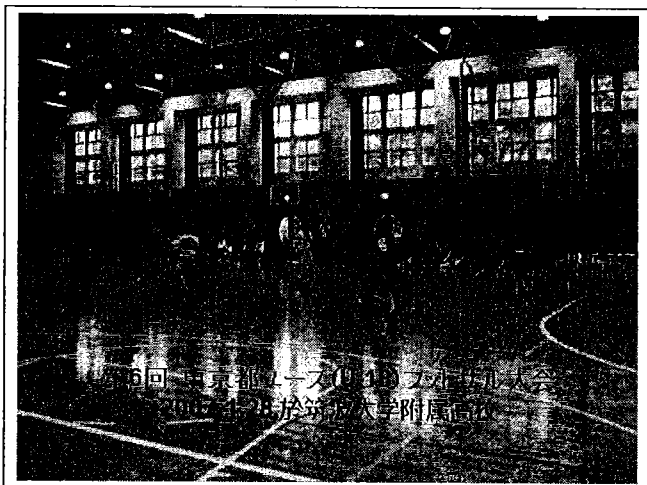
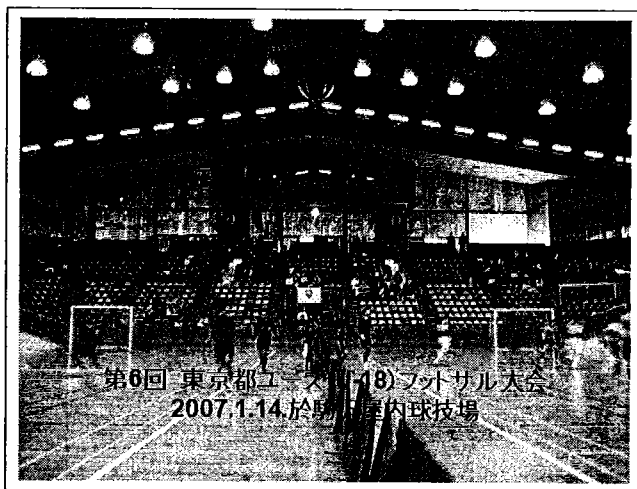
中塚 それではスライドに戻ります。2002年と言えば、ワールドカップです。高校生諸君は小学生の頃だったかと思います。この写真は2007年の写真ですけど、東京では毎回、このような感じで体育館でやっています。この体育館（駒沢屋内球技場）はもうじき取り壊しになって改修されるのですが、ここは「東洋の魔女」が金メダルを取った体育館です。コートは2面作ってやっています。

冬の大会は、ファーストラウンドをこのような場所で行い、筑波大学附属高校の体育館でセカンドラウンドを行います。U-15とU-18の準々決勝以降のゲームです。ここは学校体育館ですが、いつしか東京都のフットサルのメッカとなっています。

5. U-18大会をはじめてどうなったか

中塚 高校生、U-18の大会を東京都で始めてどうなったのか。「はじめのころはやんちゃな奴らが多様なチームで参加」とありますが、それこそサッカー部からはじけた者や、体育の授業でサッカーを選択した人たちのチームなど、多様なチームが出てきました。これは、大会ごとの登録という、フットサルの登録制度のメリットだろうと思います。そうは言っても高校生のチームなので、責任能力のある大人がしっかりとついていないとめちやくちやになる可能性があります。ということで、我々をはじめの頃から「責任能力のある大人」の引率を求めました。「学校の先生」である必要はありません。学校としての参加であっても地域クラブとして参加でも全く問題ありません。身分で分けようとは考えません。ただし、「この人が責任を持ってくれる大人だ」という人をはっきりしてもらいたいです。その人の指導を受けながら、より良いユースフットサルを作っていこうというのが当初からの考えでした。

何年間かやっていくうちに、さまざまな学校の中でフットサル部や同好会、あるいは地域のサッカークラブや地域のフットサルクラブが増えてきて、レベルが上がってくるわけです。もちろん、この大会のために編成された多様なチームも依然としてあります。例えば、クラブユース連盟に加盟し、カテゴリーとしては中学生までのチームしか持たないクラブがあります。中学生まではクラブユースでやり、高校で離ればなれになるのですが、そういう人たちが高校卒業時にもう一度集まってチームを編成してフットサル大会に参加するパターンも出てきました。



U-18大会をはじめてどうなったか？

- ・はじめの頃は「やんちゃな奴ら」が「多様なチーム」で参加
- ・「責任能力のある大人」の帯同を求める(今でも)



- ・学校のフットサル部・同好会、地域のフットサルクラブが増え、レベルが上がってきた。
- ・この大会のために編成された「多様なチーム」も参加。冬の大会にはサッカー部、サッカークラブも参加。
- ・「もっとやりたい者」「もっとやらせたい者」が増えてきた



- ・東京の取り組みを全国に発信しよう！
- ・発信しながら、今後の方向性をさぐるう！

今大会に出場している宝塚FCがそういう形だと聞いています。東京では町田JFCがこのパターンです。

フットサルリーグができる前は、年2回の大会しか公式大会がありません。もっとやりたい人、もしくはやらせたい人たちが増えてきました。

6. 外部への発信とU-18フットサルリーグの発足

中塚 現場で環境を整える一方で、東京でやっているよい取り組みを全国に発信しよう、発信しながら今後の方向性を探っていこうと考えていたところ、日本サッカー協会の「トライアルFA制度」が始まりました。その中に「ミッション7：フットサルの普及推進」があり、2005年度から2007年度まで、「東京都におけるU-18フットサル大会」をトライアルFA制度の事業と位置付け、報告書を作成することにしました。2005年度は、それまでやっていた活動のまとめを、2006年度は、皆さんのお手元に配られた水色の冊子をつくりました。フットサル大会を実施するにあたっての手引きのような

ものです。私たちとしては、各地でフットサルの大会を開催して欲しいんです。しかしやり方がおそらくわからない。東京ではこのようにやりましたというのを「マニュアル本」あるいは「考え方本」にしました。さらに2007年度は、東京の方でもリーグをやろうという流れになってきたので、リーグ立ち上げに向かっている東京の様子を報告書にまとめました。

報告書は、U-18フットサルの認知度アップを目指してつくられました。まずは東京の、特に高体連の先生方へ。

多くの高体連の人たちはサッカーのことしか関心がなく、こういう競技会に高体連のチームが参加できることを御存じありません。ですから冊子を配布し、高体連の総会などで話をし、知っていただくのに活用しました。ほかにも都内のフットサル施設など様々な機関に配布しました。

さらに、全国の担当者が集まって情報交換をする「ジョイント・ミーティング」という機会がありました。2006年は横浜、2007年は大阪と、全国各地でトライアルFA制度に取り組む関係者が集まったのミーティングです。U-18大会にはいくつかの都道府県が興味を示し、「うちもやりたい」と言ってくれました。

このトライアルFA制度は「JFA支援制度」と名称を変え、2008、2009、2010と続きます。このとき東京都では、「U-18フットサルリーグをどうやって作るのか」ということに取り組みました。先程も言いましたけど、「もっとやりたい」というのは定期的な試合の場をつくること、「もっとうまくなりたい」というのは競技力向上、それに加えてクラブを越えた交流会や選抜チームなどです。そして「もっと広げていきたい」「東京だけではなく、他の都道府県とも切磋琢磨したい」というニーズが生まれてきました。こういうニーズが底辺から生まれてきたのです。ただし、リーグということになると、誰かが担ってくれるのではなく、自分たちでや

外部への情報発信①

— トライアルFA制度の活用(2005~2007) —

- ◆JFA・トライアルFA制度 ミッション7.「フットサルの普及推進」
2005~2007「東京都におけるU-18フットサル大会」
- ◆報告書の作成
 - ・2005年度...2001~2005の事業をまとめた活動報告書作成
※毎回作成していた「大会報告書」が役に立った
 - ・2006年度...ユース(U-18)大会の運営を中心に報告書作成
 - ・2007年度...U-18プレミアリーグの試みを紹介
- ◆報告書の配布とU-18大会の認知度アップ
 - ・高体連、CY連ほか、都内の関係機関に配布
...まずは都内での認知度を高める
 - ・M7ジョイント・ミーティング(2006横浜、2007大阪)
...U-18大会に関して、いくつかの都道府県が興味を示す

20

外部への情報発信②

— JFA支援制度の活用(2008~2010) —

- ◆JFA・支援制度 ミッション7.「フットサルの普及推進」
2008~2010「東京都ユース(U-18)フットサルリーグの創設」
- ◆U-18リーグ創設の気運
 - ・「もっとやりたい!」→定期的な試合の場の確保
 - ・「もっとうまくなりたい、強くなりたい!」→競技力向上のためにクラブを超えた交流会、選抜チームの可能性
 - ・「もっと広げていきたい!」→他の都道府県との交流・拡大
- ※自主運営できるか?
会場は? 審判は? 責任の所在は?

↓
とにかくリーグ戦をやってみよう!
“公認リーグ”の可能性と課題もみえてくるはず...

21

ってもらわないと困ります。果たして自主運営ができるのだろうか、会場の確保はできるのか、審判や責任の所在はどうなるのか、といった様々な課題があり、なかなかはじめの一步が踏み出せませんでした。ですが、とにかくやってみよう、やっていく中でいろいろ課題も見えてくるのではないかということではじめたのが、東京都のU-18 フットサルリーグです。

7. 東京都 U-18 フットサルリーグと神奈川県のリリーグ戦

中塚 2007、2008 年度にプレリーグ、2009 年度より東京協会主催の公認リーグとなりました。そして 2012 年度は、1 部、2 部が各 6 チーム、11 クラブ 12 チームで実施しました。1 クラブから 2 チーム出しているところもあるわけです。2012 年度リーグは秋だけの開催です。

4 月から 6 月に交流戦や審判講習会をやっていました。

東京の場合、全て高校生審判でやっています。主会場は、豊島園の更衣室が冬の間だけフットサルコートになっているので、そこを使っています。あとは学校の体育館ですね。

2012 年度の 1 部リーグ優勝は「フットボウズフットサル」。今大会は予選で負けてしまいましたが、フットサル専門の強豪です。準優勝の「府中アスレティック」も F リーグの下部組織で、かなり強いのですが、ここも予選で負けてしまいました。

リーグ選抜の活動ですが、昨年度から 2 年続けて

12 月に韓国に行っています。3 月には神奈川選抜と交流戦をやりました。「もっとやりたいから自主運営！=リーグの原則」ということでやっています。

会場には、神奈川の友大さんがいらっしゃいます。突然で申し訳ないのですが、神奈川でもリーグ戦をやっています。神奈川のリーグの様子を少しお聞かせいただけますか？

大友洋介（神奈川県フットサル連盟副理事長・武相高校フットサル部顧問） 神奈川から今回参加しています、武相高校フットサル部の大友と申します。私は、神奈川県サッカー協会の方でもユース担当をしております、リーグ戦を運営しています。

神奈川県 U-18 フットサルは、まず 2006 年に単発のカップ戦を行ないました。そして 2007 年の第 2 回カップ戦の時に 10 チームの参加があったので、このまま勢いに乗って 2008 年からリーグ戦を神奈川県サッカー協会公認として行なっております。

リーグ戦第 1 回は 8 チームが参加し、総当たり 1 回戦制で、主審は派遣で来てもらい、第二審判を選手または指導者がやるという形で、東京都と同じように自主運営で行なっています。リーグ戦の実施のためには会場を確保しなくてはならない問題があります。神奈川県 U-18 フットサルリーグの会場に関しては、大体年間 10 日行なうとすれば、神奈川県サッカー協会フットサル委員会より 2 日分提供してもらい、それから参加チームの中で会場を提供できる学校があるので、その 2 校に 2 会場ずつ提供していただき 4 日分となります。そして残りの 4 日分は参加チームで協力し合って公営の体育館などを抽選でうまく引き当てていくようにしています。10 チームで毎月取り組むと年間 4 回ぐらいはとれるんです。そういった形で各チーム代表者と協力しながら年間での運営をしています。

第 2 回のリーグ戦は、参加チームが 6 チームと減ってしまったのですが、それでも競技志向で行なっている高校フットサル部と、フットサルのクラブチームなどが中心となり、すごく内容の濃い充実したリーグになりました。良いリーグが第 2 回で行なえたこともあり、第 3 回には 9 チームが参加、第 4 回には 10 チーム、そして第 5 回リーグとなる昨年のリーグが 13 チームの参加となりました。13 チーム総当たりのため、9 月 16 日

東京都 U-18 フットサルリーグ

◆2007、2008 年度にプレリーグ

◆2009 年度より、TFA 主催の公認リーグ

◆2012 年度の様子

・1部・2部各6チーム、計12チーム(11クラブ)

・10~12月に1回戦制、4~6月に交流戦・審判講習会(高校生審判)

・主会場はフスコフットサルアレーとしまえん、筑波大附属高校体育館等

・1部結果...優勝:フットボウズフットサル

準優勝:府中アスレティックFCユース

第3位:東京成徳大学高校フットサル同好会

・リーグ選抜...12月に韓国遠征(大会に参加)

3月に神奈川県選抜と交流戦

「もっとやりたい」から自主運営！=リーグの原則²²

間に及ぶ長期のリーグ戦を行なうことができました。今年度はいよいよ16チームの参加でのリーグ戦を予定しています。16チームとなると総当たりで1リーグというのが総試合数の面で厳しくなってきます。そのため、16チームをAブロック、Bブロック、それぞれ8チームずつに分けて、1位同士、2位同士の順位決定戦を最後に行なうか、プレーオフを行なうかはまだ詰めめの段階ですが、そういった形でのリーグ戦を考えています。

参加しているチームで協力して技術や競技レベルを向上させていって成果が上がると、今度は高校のサッカー部が興味を示すというか、「これだけ効果があるものならうちの学校もやってみようかな」「どうやったら参加できますか」と聞かれるようになるんですね。そして、高校サッカー部に参加してもらえると、今度は、今回のような大会ですが、本校はなかなか結果を残せませんが、それでも日頃から高校サッカー部とフットサルの専門のチームとでリーグ戦を行なうと、やはりこちらも色々な戦い方が見えてきます。リーグで経験を重ねることで、大体どんなゲームも接戦にもちこみ、最後には勝利をつかみ取ることができるというところまで来ました。

フットサルの面白さと言いますか、やってみないと結果がわからない、そういった試合展開を作り上げることができるようになってきています。以上です。

8. 熊本県のリーグ戦について

中塚 ありがとうございます。このように、東京や神奈川などの人口が多いところ、交通の便が良いところで少しずつリーグ戦が始まっています。

ところで岩本さん、東京や神奈川だけじゃなくて、熊本でもやれるということですよ。

岩本 はい。それでは熊本でどうやってリーグができたかというのを少し話させてもらいます。

まずは、リーグ発足のきっかけです。いまこの高校生選抜にもいますが、国府高校といって、サッカーも県内では強い高校なんですけど、国府高校にフットサル同好会が発足して活動を始めたことにあります。ただ、同好会はできたのですが、なかなか同世代の試合ができないので、県社会人リーグに参加してもらっていました。しかし、社会人と高校生とでは筋肉のつき方も異なりますし、体格がやはり違います。23歳以上にならないと大人の筋肉に変わらないというのは否めなくて、苦しい戦いを繰り返していました。そんな中、そういうのを見ながら、熊本市を中心に高校生のフットサル愛好者がぼつぼつと増えてきました。

そして、そういう子供たちが高校でフットサル同好会を作ってくれたり、意識のある指導者の人たちが、サッカーじゃなくて「フットサルチームを作ろう」ということでクラブチームを発足してくれている状況です。さらに、そういう子どもたちが集まってきて、熊本に、田舎なのですが、民間のフットサル施設もぼつぼつとでき始めてきました。「フットサルパーク熊本」であったり、今日、熊本県選抜の監督をしてきている前田監督がマネージャーを務め、巻誠一郎選手が作ってくれた「巻フットサルセンターカベッサ熊本」という人工芝の施設なんかを利用して、大会を開こうかということで、U-18世代のチームを集めて大会をやりました。これはワンデイの大会です。

まずは1デイの大会をやったらそれが大好評で、「もっとやりたい」という声が出てきます。東京と同じように、一度そういう場を提供すると「もっとやりたい」という声が大きくなったんですね。「それじゃあ月1回やってみようか」となりました。これはまだリーグの段階ではないです。ワンデイ大会の集りで、月1回を

【リーグ発足のきっかけ】

国府高校にフットサル同好会が発足し活動を始める
同世代で試合相手がないため県リーグへ参戦
熊本市を中心に高校生フットサル愛好者が増える
他の高校でも同好会やクラブチームが発足



U-18世代のチームを集め大会を開催 **大好評**
月1回の定期開催を試行
プレリーグの発足
プレリーグの成功を経て、**正式リーグ開催**

目処に、定期開催というのを試しにやってみました。そうすると何チームか、毎回出てくるチームがあるんですね。そういった毎回出てくるチームがあるのでしたら、「プレリーグをやってみよう」ということになりました。プレリーグの発足に到りました。

まだプレリーグなので、ルールだったり、ユニフォームなどはある程度緩やかな制限の中でさせました。その中で、審判などの問題も各地域あるかと思いますが、おかげさまで国府高校のフットサル同好会などがリーグに参加してくれているおかげで高校生が審判をするというのが違和感なく進められたんですね。こうしてプレリーグが発足し、これがまた運営がスムーズに行きましたし、施設側の協力とチームの代表者の努力とフットサル委員会の片目を瞑った運営のおかげで、プレリーグもうまくいきました。

「プレリーグがうまくいったのなら、正式リーグにしてしまおう」ということで、正式リーグを開催するということになりました。そういうことでリーグが発足しました。

なぜ熊本の田舎で、フットサル人口もそう多くないにもかかわらず成功したのかということを考えてみました。私は大きく2つの要因があると思うんです。まず1つは、やはりやる場所がないとなかなかできないということで、施設、チームの代表者の方、そして協会のコラボレーションがうまくいったのではないかということです。それでは、なぜそのコラボレーションがうまくいったのかということの掘り下げて考えると、やはり施設としては、「高校生世代の普及と、高校生がサッカーを諦めたり、辞めてしまったりした子どもたちの、ボールを蹴る場を提供したい、そういう環境を作りたい」という熱い思いがあったんですね。

そういうことが大きな要因かなと思います。あと、チームとしては、やはり練習をやるだけではなかなか選手のモチベーションも上がらないので、リーグをやることで選手のモチベーションの維持と、次の試合に勝つという目標設定がスムーズにできるのかなと感じました。協会については、協会もどんどん中学生、高校生世代に取り組みないと、九州でいくとやはり福岡が人口的にも、レベル的にも先行している現状の中で、なんとか食い込みたいという思いがあって、そうするためにはどこを強化すればいいのかと考えました。そしてやはり高校生なのかなというところで、県のレベルアップという目論みの中でうまくいったのかなと思っています。

もう一つの要因は、施設、チーム責任者、協会の三者が当事者意識を持ってやれたことが大きいかなと考えます。三者がそれぞれ他人任せにしまうと、運営もうまくいかなくなると思うのですが、施設、チーム、協会がそれぞれ当事者意識を持ってやれたのが大きいかなと思います。施設というのは、いい環境でやらせてあげたいというのがいつも出てくる言葉で、チームについても先程の目標設定だったり、モチベーションの維持などがありますが、やはり多くの試合を経験させてあげたいというのがあります。協会についてはトラブルなくスムーズな運営で、高

【リーグ発足成功の要因】

施設、チーム責任者、協会のコラボレーション

施設 → 高校生世代の普及と環境の提供

チーム → 選手のモチベーション維持と目標設定

協会 → 高校生世代の普及と県のレベルアップ

三者が当事者意識を持って実施

施設 → 良い環境でさせてあげたい

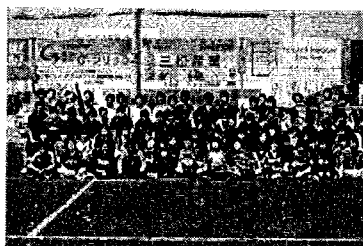
チーム → より多くの試合を経験させたい

協会 → スムーズな運営で楽しんでほしい

第1回高校生フットサル大会



第1回優勝:ルーテル学院フットサ



校生世代というのは、「つらい」じゃなくて「ボールを蹴ることが楽しい」という思いでやってもらいたいというのがありました。この大きな二つの要因の中で、リーグ発足がうまくいったんじゃないのかなと思っています。

この写真がワンデイの大会で最初にやった第1回高校生フットサル大会のものになります。これは巻選手が作った巻フットサルセンターカベッサ熊本という施設で、3ピッチある中でやりました。上の写真が試合風景ですね。左下の写真が、第1回目に参加してくれた高校生です。非常に多くの高校生が参加してくれました。おそらく8チームぐらい集まってやった記憶があります。青いユニフォームを着ているのが、高校サッカー選手権でも常連の大津高校の生徒で、彼らはサッカーではなくてフットサルが大好きな大津高校の生徒さんです。そういった子たちが集まって、ある意味クラブチームのような感じで参加してくれた子どもたちです。そして、右側を見ていただくと、第1回優勝のルーテル学院フットサル同好会のメンバーで、この年にフットサル同好会を立ち上げてくれて、参加してくれたメンバーです。今年で大学3年生になる世代の子たちが、同好会を作るために顧問の先生と話したり、生徒会と話したり、学校の先生たちを説得に行ったりして作っています。この中の1人が、いま九州リーグで頑張ったり選抜のコーチをやってくれたり、一所懸命やってくれていますが、やはり客観的に考えますと、施設側とチームが強力にタッグを組んでくれたことが一番大きいのかなと思います。

熊本県選抜の監督をやっている前田監督は、カベッサ熊本のマネージャーです。会場に来られているので、少し話を聞いてもらえると、各県の方々が参考になるのではないかなと思います。一言話をさせていただけたらと思います。

前田（熊本フットサル選抜監督・巻フットサルセンターカベッサ熊本マネージャー）

こんばんは。いま紹介に与りました熊本県フットサル選抜監督の前田と申します。紹介にありましたように、カベッサ熊本のマネージャーをやっております。カベッサ熊本を中心に高校生フットサルリーグが立ち上がったのですが、立ち上がった経緯は、いま岩本さんが話されたところです。

その同じタイミングの話です。私が施設を運営している中でワンデイ大会などをやると、社会人のチームに混ざって高校生が出てくるという大会が続きました。そして、たまたまその高校生の中で、先ほど岩本さんがおっしゃっていた大津高校の生徒たちが来て、社会人とやってボコボコにやられて泣きながら帰るといった日が続いていました。

実は私も大津高校出身で、遠いですけど後輩にあたる子たちに話かけました。「何でフットサルをやっているの？」と聞いたところ、強豪校になると部員が100名や120名にどうしてもなってしまう、練習についていけないという子たちが出てきていたのが現状でした。さらに、一つの高校だけではなく、ベスト4やベスト8レベルの高校にも、サッカーをやりたくて行ったけれども、どうしてもついていけないなどの事情で、サッカーを辞めてしまった子たちがたくさんいるという現状に気づきました。私自身、今でもプレーヤーとしてビーチサッカーや11人制サッカー、フットサルもずっとやってきて、なんでこんなに楽しいスポーツを辞めていく子たちがいるのかと思いました。やはり、このスポーツは楽しいですし、このスポーツを通して社会によく適応していける人間になることができます。このスポーツを辞めていく子どもたちの姿を見ることができませんでした。

そこで岩本さんに相談したところ、似たような考えがありまして、そういう子どもたちが救えるかもしれないと話したわけです。そこで高校生フットサルリーグ、その当時はプレ大会という形だったのですが、設立し、リーグへと運んでいったわけです。

フットサルをやりたいからやっている子たちもたくさんいるのですが、やはり当時は、ボールを蹴る場所を探している子どもたちがたくさんいました。そういう子どもたちに一人でも多くフットサルを楽しんでもらいたいということで、高校生リーグを作りました。その流れがあり、いまこうやって熊本県フットサル選抜という形に結果としてできております。また今後もこういったリーグ戦をどんどん増やして行って、行く行くは

熊本が全国でもチャンピオンをとれるように、そういうチーム作りをやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

長々とすみません。ありがとうございました。

中塚 ありがとうございました。熊本にしろ神奈川にしろ、やはり、熱い思いを持った人がアクションを起こして、それがタイミング良くいろいろなところで繋がって、形になっていくことがわかると思います。

10. 全国大会開催へ向けて

中塚 また東京の話に戻りますと、最初の10年間で、いままで話したようなことが始まり、次に向けて、横への広がりとして「関東、そして全国へ」、さらに縦への広がりとして「底辺から頂点まで」というようなことを志向してきました。このように色々こちらで模索していたところ、「全国大会をやろう!」という話が出てきました。

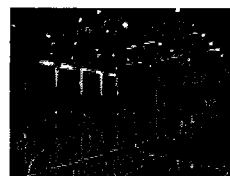
「それは本多氏の訪問から始まった」と書いてありますが、今回の大会を裏方として支えてくださっている、株式会社シックスの本多克己さん、彼はサロン2002の副理事長でもあります、彼がある時、私の学校を訪ねて来て、「全国大会をやろう!」という結論に達しました。

その時点で、民間レベルのU-18フットサル大会の取り組みがいくつかありました。1つは「夏高フットサル」と言われる取り組みで、2008年から2010年まで行なわれていました。2011年は震災の影響で中止になり、そこで終わっています。これは「春高バレー」や「高校生クイズ」のような学校対抗戦をイメージしたもので、学校名を表に出し、学校単位で出場する競技会です。担当者が私のところに来て構想を話されたことがあるのですが、私はそのとき彼にこう言いました。「これはフットサルの理念から残念ながらかけ離れているね。学校の括りの中でやってしまうと、フットサルの『いつでもどこでも誰とでも』というものから離れてしまった別物になってしまうだろうし長続きしないと思うよ」と。よく憶えています。

それから、ホンダカップという民間の大会のユースカテゴリーが、2010年から始まります。サッカー協会公認大会も、先程から出ているように、いくつかの地域で始まります。ただ、高体連はフットサルには及び腰という状態の中で、先程も言いましたが、本多さんが東京まで来て、薄汚い体育教官室で作戦会議を開いたわけです。将来的に公式大会となるような全国プレ大会を開けないだろうかという話です。下地はある程度あったわけです。

「はじまりの10年間(2001~2010)」と、「次の10年間(2011~2020)」の位置づけ

- ◆「はじまりの10年(創設期)」は、「都内」で立ち上げ、育てた期間
立ち上げ、育てたのは、
①普及目的の夏の大会
②競技志向の冬の大会
③フットサルリーグ



- ◆「次の10年」は「横と縦への広がり」を志向する
①横への広がり ... 「関東」そして「全国」への拡大
↳ 隣県との交流から全国大会の開催へ
②縦への広がり ... 「底辺」から「頂点」までの拡大
↳ 多様なレベル・ニーズに応じた事業

28

(プレ)全国大会開催へ向けて

それは本多氏の訪問から始まった

- ◆民間レベルのU-18大会
1)「夏高フットサル」の試み
2008年8月「第1回夏の高校生フットサル大会」(フジテレビ系)
2010まで開催。2011は「震災の影響で」中止
「学校名を出して「学校単位」で出場
「春高バレー」「高校生クイズ」のイメージだろうが、「フットサルの理念」からはかけ離れている(中塚考)
2)「ホンダカップ」でユース(U-18)カテゴリーはじまる(2010)
3)その他
◆サッカー協会公認大会 ↳ 東京含め、いくつかの県ではじまる
◆高体連 ↳ フットサルには及び腰?

2011年9月 於筑波大学附属高校体育教官室

本多・中塚 作戦会議

「将来的に公式大会」となるような全国プレ大会を開けないだろうか

あとはお墨付きがほしいところですが、フットサル連盟やサッカー協会フットサル委員会の中でも、全体を考えながら構想を練っている方々がおられました。

大立目さんにもこの時に連絡させていただいたと思うのですが、大立目さん、U-18年代をどうするかについての、この頃の動きをご紹介いただけますか。

大立目 連絡を頂く前から、自分の周りの人たちとは、「Fリーグが軌道に乗ってはきてはいるけど、日本代表の年齢構成も含め、若い世代の育成も考えていかないと、数年先の日本代表やFリーグはどうなるのだろうか」という話をいろいろなところでしていたわけです。その中で、「高校生のU-18世代が目標となる大会を作らないと、ひよっとしたら手遅れになってしまうんじゃないだろうか？」という提言を色々な会議の場でしていました。今日会場にいらっしゃる電通の平野さんなどがその一人なのですが…。

しかし、全国大会を開催するというのは実はそんな簡単なものではなくて、「経費はどうなるのか?」「運営は誰がするのか?」など諸々面倒なことがあります。ただ、全体の組織ができてからというのではなくて、走りながら考えましょうと賛同をいただき、スタートしようとしていたところに、ちょうど本多さんや中塚さんから話がありました。タイミング的に一致したわけです。とは言うものの、「大会をやったはいいいけど、やはり今ひとつだったね」ということがないように、焦らず慌てず、しっかりと土台を築きながら進めていかなければいけません。そういうことで、年次計画と言いますか、徐々に進めていこうという中で、昨年の大会がスタートしたわけです。

**サッカーキングカップ
U-18フットサルトーナメント2012**
2012年3月24日～25日 於オーシャンアリーナ

- 主催：株式会社フロムワン、株式会社シックス
- 後援：一般財団法人日本フットサル連盟
全国9地域フットサル連盟
- 協力：財団法人愛知県サッカー協会
愛知県フットサル連盟
名古屋オーシャンズ株式会社
- 特別協賛：サッカーキング
- 協賛：株式会社ナイキジャパン
株式会社日本ツアーサービス

28

**サッカーキングカップ
U-18フットサルトーナメント2012**
2012年3月24日～25日 於オーシャンアリーナ

- 優勝 名古屋オーシャンズU-18(愛知県)
- 準優勝 作陽高校(岡山県)
- 第3位 松山工業高校(愛媛県)
- 第4位 国学院久我山高校(東京都)
- 第5位 京都橘高校(京都府)
- 第6位 VAINFC伊達U-18(北海道)
- 第7位 A.C.アズーリ(宮城県)
- 第8位 熊本県U-18フットサル選抜(熊本県)
- 第9位 日本ウェルネス高校松本校(長野県)

31

中塚 ありがとうございます。そういう経緯の中でちょうど去年の今頃、「サッカーキングカップU-18フットサルトーナメント2012」を、3月24、25日、場所はここオーシャンアリーナで行ないました。後援に日本フットサル連盟に入っていたら、各地域連盟のサポートもいただいた形で行なわれました。

決勝戦で赤いユニフォームを着ているのが名古屋オーシャンズU-18、緑色のユニフォームを着ているのが作陽高校です。この決勝戦はすごく面白い試合だったのを憶えています。残り

出場チーム

優勝: 名古屋オーシャンズU-18 (愛知県)

準優勝: 作陽高校(岡山県)

3位: 松山工業高校(愛媛県)

4位: 国学院久我山高校(東京都)

5位: 京都橘高校(京都府)

6位: VAINFC伊達U-18(北海道)

7位: A.C.アズーリ(宮城県)

8位: 熊本県U-18フットサル選抜(熊本県)

9位: 日本ウェルネス高校松本校(長野県)

2秒で作陽高校が同点ゴールを決めて5対5となり、延長戦に突入しまして、名古屋オーシャンズが決勝点を取って優勝したというのが、去年の大会です。

皆さんのお手元にもあると思いますが、代表という言い方は馴染まないかもしれませんが、それぞれの地域から選んでいただいたところに出場してもらいました。フリーグ下部組織、フットサルクラブ、サッカークラブ、そして高体連のサッカー部も含めて行ないました。この中で、作陽高校、松山工業高校、京都橘高校といったところは、今年のお正月の高校選手権でも上位進出した高校です。フットサルにもメンバーを送り込んでくれるような、柔軟な発想をもった指導者の下で、サッカーの方も強くなるのだらうなと思います。連続出場は熊本県U-18 選抜のみです。

大会結果

■2次ラウンド

5) VAIN FC 作陽 U-18	10:00:00	1	0	10:00:00	1	0
6) 豊平岡久藤山高校	10:00:00	0	0	10:00:00	0	0
7) 名古屋オーシャンズ U-18	10:00:00	2	0	10:00:00	2	0
8) 京福高校	10:00:00	0	0	10:00:00	0	0
9) 作陽高校	10:00:00	3	0	10:00:00	3	0
4) 作陽高校	10:00:00	0	0	10:00:00	0	0
2) 松山工業高校	10:00:00	0	0	10:00:00	0	0

CHAMPION
名古屋オーシャンズ U-18

その大会が終わり、2012年度にU-18のフットサルはまた大きく動き始めた気がします。

一つは、今年のこの大会に向けての動きです。それから参加チームのお膝元でも、「やろうよ」という声が少しずつ上がってきます。また、U-18年代のフットサルの競技会が各地域で増えたような気がします。高校生年代の北澤CUP、あるいは招待大会も、すでにやっているところもあったのですが、その情報が行き来するようになりました。

U-18フットサルにとっては追い風になるわけですが、ここで落ち着いてグランドデザインを描くことも必要だろうということで、いろんなところで議論が始まりました。この場もその1つです。

ここまでのU-18フットサルの“これまで”ということです。歴史をしっかりと皆さんで共有することが大事だと思い、少し時間をかけてここまで話しました。

2012年度のU-18フットサルの動向

◆3月の「プレ大会」をめぐる動きがはじまった！

- ・次回も日本フットサル連盟の後援で。あせらず、あわてず、着実に
- ・参加チームのおひざ元ではいくつかの動きが...

◆U-18フットサルの競技会が各地で増えてきた！

- 1) 高校生フットサル 北澤CUP inウイターフリーグ
 - ・2012春...6月13日 於代々木フットサルコート(人工芝)
 - ・2012夏...8月26日 於テバオーシャンアリーナ
- 2) 招待大会
 - ・大阪府ユース(U-18)フットサル大会(第8回) 府中アスレが優勝
 - ・クラークカップU-18フットサルフェスティバル

※U-18フットサルにとっては追い風。まずは成り行きを見守りたい
※「グランドデザイン」を描くことが大切

II. U-18フットサルの“いま”

1. U-18フットサルトーナメント2013出場に向けた各地域の経緯

中塚 今回のU-18フットサルトーナメント2013は、主催が日本フットサル連盟と産経新聞社、主管に愛知県サッカー協会、同フットサル連盟、そして後援に日本サッカー協会と9地域連盟、協賛にサッカーキング、プーマジャパンということで、今日と明日、行なわれています。ここに到った出場チームの紹介と言いますか、それぞれの地域でどのような経緯で出場するに到ったのかを順次ご紹介いただければと思います。代表の方が残っておられるところは代表の方にお話しいただき、そうでないところは、全国をまわっておられる本多さんから紹介していただければと思います。

北から順にお願いします。

本多克己（株式会社シックス代表・サロン2002 副理事長） 事務局を担当させてもらっております本多です。

北海道は昨年、伊達緑丘高校が「伊達FC」という名前でクラブチームとして参加されましたが、今年はそれに勝利した帯広大谷高校が代表となりました。3クラブ6チームで代表決定戦が開催されました。東北はフットサル連盟とクラブユース連盟が中心になって声をかけて頂き、これも昨年出場のACアズーリに勝利したリベロ津軽が出場を決めました。関東の武相高校は、顧問の大友先生がいらっしゃるのでお願いします。

大友 関東地域の高校生、U-18年代のフットサルの状況ですが、埼玉県や群馬県、山梨県にもチームはあるものの、この年代の大会を継続的に協会主催で行なっているところは東京都と神奈川県だけです。よって、今回は両県の代表同士で決定戦を行うことになりました。東京は、1月末の東京都ユースフットサル大会28チームの優勝チーム

である國學院久我山高校、神奈川は、県ユースフットサルリーグ13チームの優勝チームである本校、武相高校です。30分プレーイングタイムのゲームを行い、延長の末2-1で本校が勝利して出場権を獲得しました。

神奈川でも東京と同じくユース大会を8月に行なっており、今回神奈川県の中では、リーグ優勝チームとカップ優勝チームのどちらが出るのが話題になりました。結果的にはちょうどリーグ優勝が1月27日に決まり、東京都のユース大会の優勝も同日の1月27日に決まったものですから、直近の大会結果を優先し今回の形になりました。神奈川では、今後どうするかはわからないのですが、2013年度も8月にカップ戦を行ないます。体育館を借り切っている大会なので、カップ戦は継続して行います。2013年度も3月に開催されるU-18フットサルトーナメントに、推薦という形であれば、12月か1月に優勝が決まるリーグ戦の優勝チームを選出

U-18フットサルトーナメント2013

2013年3月30日～31日 於テバ・オーシャンアリーナ

- 主催：一般財団法人日本フットサル連盟
産経新聞社
- 主管：公益財団法人愛知県サッカー協会
愛知県フットサル連盟
- 後援：公益財団法人日本サッカー協会
全国9地域フットサル連盟
- 協賛：サッカーキング、プーマジャパン株式会社

33

本大会までの道のり①

- 北海道(6)：帯広大谷高校(北海道)
 - ・1月14日@北体育館で大会を開催
 - ・出場チーム(6チーム)：サンクFC(リヤマU18A・B、伊達緑丘高校A・B、帯広大谷高校A・B)
- 東北(2)：リベロ津軽(青森県)
 - ・2月9日@奥州市江刺中央体育館
 - ・リベロ津軽(青森県)とACアズーリ(宮城県)による決定戦
- 関東(41)：武相高校(神奈川県)
 - ・1/13、19、27に開催の第13回東京都ユース(U-18)大会(28チーム)、および第5回神奈川県ユース(U-18)フットサルリーグ2012(13チーム)の優勝チームが関東代表決定戦
 - ・2月11日@筑波大学附属高校 武相高校vs國學院久我山

34

していきたいと考えています。2月に行われるであろう関東予選に向けて、一番チーム状態の良いチームを代表として選出したいからです。

本多 ありがとうございます。続きまして北信越です。昨年は日本ウェルネス高校に出場していただきました。今日は同校の村山先生が、運営のボランティアということでご協力していただいていますので、村山先生に経緯をご説明していただければと思います。

村山吉郎（日本ウェルネス高校松本キャンパスサッカー部監督） こんばんは。北信越は昨年、無理矢理長野県大会を一度開きまして、これは県の後援も得ず、北信越の後援も得ませんでした。

今回の出場にあたって長野県は、第2回大会ということで3チームが参加し、少しでも知名度を上げるためにJの下部組織である松本山雅にも出場をお願いし、長野県連盟の後援を頂けました。本当は各地で県大会を行なって欲しかったのですが、やはりまだ普及ができていないということで、北信越大会を3月2日にやらせていただき、中越高校が優勝したので、私は一人で今回は参加させていただきました（苦笑）。

本多 ありがとうございます。次に東海地域です。三重県、岐阜県、静岡県からそれぞれチームが出場し、エコパサブアリーナという素晴らしい環境で大会が行なわれ、静岡県代表のエスパッソが代表の座を得ました。

関西は、宝塚FCという、先程の中塚先生のお話にもありましたけど、非常にフットサルらしいチーム構成で出場していただいています。高原さんが今日お越しいただいていると思います。

高原 渉（宝塚FC代表・サロン2002運営委員）

初めまして。宝塚FCの高原と申します。関西全体は見えていないので、どういった経緯で出てきたかというところをお話しさせていただきます。

宝塚FCは兵庫県のチームです。兵庫県の大会が3月16日に、神戸市にある民間の施設で行なわれ、そこでうちのチームを合わせた6チームが出場しました。そしてその6チームの中で半日かけて兵庫県大会の優勝チームを決め、その後に大阪の方で、詳しい経緯は別ですけど、代表チームが出てこうられまして、その大阪のチームとうちのチームが関西代表の枠を争ってゲームを行ないました。そこでなんとか勝つことができましたので、今日の大会に参加しているわけです。

本多 ありがとうございます。会場にはあと1チーム、兵庫の大会に出場していた梅南FCにお越しいただいておりますので、一言お願いできればと思います。

永松 慎二（梅南フットサルクラブ代表） 梅南フットサルクラブの永松と申します。大阪の方で活動しているフットサル専門のクラブチームです。関西、大阪では、フットサルのチームで専門的にやっているところは、施設でのスクールチームがほとんどです。自分のように個人で立ち上げたクラブチームというのはありません。その中で、子供たちに夢を持たせて活動させるために、U-12、U-15、U-18、そしてその先に繋がるような活動を考え、運営してきました。ただ、運営していく以上、子どもたちにU-15でもU-18でも活動する環境があるということを作っていきたいと思い、さまざまな大会にも参加させていただき、今回の関西大会にも参加しました。本多さんのご協力もあり、色々と話を進めていく中で、関西の方でもU-18でこのように7チーム参加さ

本大会までの道のり②

■北信越(5)：中越高校(新潟県)

・長野では、1月19日に大会を開催。出場チーム：県立茅野高校、日本ウェルネス高校松本校、松本山雅FCU18

・3月2日に麻績体育館にて北信越大会を開催。4チームが参加。松本山雅FC U18、グランセナ新潟FCユース、日本ウェルネス高等学校 松本校、中越高校

■東海(3)：エスパッソ(静岡県)

・3月10日にエコパサブアリーナにて3チームによる大会を開催。津FC、八百津高校、エスパッソ

■関西(7)：宝塚FC(兵庫県)

・3月16日にセレブ6-aフットサルクラブにて大会を開催。まずは兵庫大会を、宝塚FC、Ridicule、神戸国際大学附属高校、クラーク記念国際高校、甲南高校、梅南フットサルクラブで実施

・引き続き代表決定戦 宝塚FC(兵庫大会代表)vs AUELU(大阪大会代表)

35

れているということ、そして私の方で主催させていただいている大会でも、関西で7~8チーム集まることもあり、関西でU-18リーグ戦を2013年度からやっっていこうと思っています。明日、グリーンアリーナ神戸でそのプレ大会を行ない、その後打ち合わせ会を行ない、2013年度に1年間を通してリーグ戦を行なえるよう、持っていきたいと思っています。このように関西でもU-18の環境を整えていければと考えております。

本多 ありがとうございます。中国地方は、昨年準優勝の作陽高校、そして鳥取からクラーク国際高校が出場して、その中で広島瀬戸内高校が勝ち抜き、本大会出場となっております。瀬戸内vs作陽の試合は非常にレベルの高い試合でしたが最後は5-4で決着しました。四国は、去年は松山工業高校に推薦で出場していただいていたのですが、今年も推薦ということで、高知西高校に出場していただいております。

続きまして、開催地代表ということで、松蔭高校の酒向先生、お願いできますか。

本大会までの道のり③

- 中国(3): 瀬戸内高校(広島県)
 - ・ 2月10日@鏡野町文化スポーツセンター
 - ・ 出場チーム(3チーム): 作陽高校(岡山)、クラーク記念国際高校鳥取キャンパス、瀬戸内高校(広島)
- 四国(1): 高知西高校(高知県)
 - ・ 推薦により高知県立西高校に決定
- 九州(8): 熊本県U-18フットサル選抜
 - ・ 推薦により熊本県U-18フットサルリーグ(8チーム)の選抜チームに決定
- 開催地(6): 松蔭高校(愛知県)
 - ・ 2月24日 守山スポーツセンター
 - ・ 名古屋オーシャンズU-18、熱田高校、岡崎学園高校、松蔭高校、名古屋高校、名東高校

38

酒向 愛知県大会の開催の連絡が高体連の西野専門部長の方から各高校にまわりまして、沢山出るのかなと思っまして蓋を開けてみたら、6チーム。オーシャンズを含め、あとは高校の参加という内訳になりまして、それを勝ち抜いて、いまここにいます。現状としては、まだクラブも高体連も、2種のチームにフットサルが根付いていません。オーシャンズはありますが、まだ高校生にとってフットサルがまだ根付いていない地域だなど、この参加チームを見て思っております。以上です。

本多 ありがとうございます。今回、九州以外は初出場のチームということで、私自身は去年の大会に参加してくださった方々の顔が見られないので少し寂しくもあります。ただ、新しいチームの皆さんに参加していただいて、その経験をまた新しいチーム、もしくは新しい都道府県に伝えてもらうということで、大会をさらに広く発信できるということを嬉しく思っております。

中塚 では熊本県、九州の様子をお話してください。

2. 九州・熊本県の様子

岩本 九州代表として熊本県が選ばれた経緯を話します。九州地域の現状として、実は九州の中で熊本のみがリーグ戦をやっています。そういう関係で、熊本が推薦をいただいたのですが、九州の中でなぜ熊本しかやれていないのかということを見ると、やはりフットサル委員会やフットサル連盟の中の人材が不足していますね。他県も同じだと思います。何か大会をやると思ったら、先程もお話がありましたように、「誰が運営するのか?」「どこでやるのか?」というところが大きな課題になってきています。それに加えて、やはりU-18世代のフットサルを教えられる指導者がな

【九州地域の現状】

熊本のみがリーグを開催

フットサル委員会、フットサル連盟の人材不足
U-18世代の指導者人材不足 → 指導者の意識不足?



平成25年度からは九州大会として開催予定



熊本県が九州代表として本大会出場

かないけません。やっとフットサルC級ライセンスが出てきましたが、一つ大きなハードルとして、サッカーのC級を持っていないといけないというのが、フットサルC級ライセンスのハードルを上げてしまっているのかなと思います。

それに加えて、なかなか指導者の意識が変わってきません。フットサルというのは、変な言い方をしますと、サッカーを諦めた人たちがやるものとか、そういう感覚を持っている指導者がいらっしゃるのは否めない事実です。実はバーモントカップなども、チーム数を集めるために4種の指導者ともいろいろ話をするのですが、「フットサルなんて…」という言葉が聞かれるのは非常に残念なことだなと感じます。もっと世界を見て欲しいというところです。

先日の九州の委員長会議をやっている中では、「やはり熊本だけに頼ってはいけませんよ」という言葉がちらほら出るようになりました。熊本でリーグをやっていますが、リーグの中だけだとモチベーションがなかなか上がらないというのがあります。優勝しても、次に繋がる何かがあるのかと言っても、今のところはあきません。なのでいま、宮崎や鹿児島などに声をかけて、熊本のリーグで優勝したチームと準優勝チームぐらいは3県交流のところで何か大会を開き、そして出場権が得られるというような仕組み作りをいま考えているところです。来年度の平成25年度からは、九州大会として開催しようという動きで話を進めています。熊本であれば屋根付きのスポーツコートがカベッサ熊本にあるので、そこは事前にいろいろ調整をすればできるので、是非九州大会をやりたいと考えております。

そういう経緯がありまして、今回は熊本県が九州代表としてこの大会に出場させていただいております。

中塚 ということで、今大会の出場10チームがどのような背景で出てきたのか、そしてこの大会の意義・意味というのもある程度共通理解が持てたのかなと思います。



Ⅲ. U-18 フットサルの “これから”

1. 「U-18 フットサルトーナメント」の “これから”

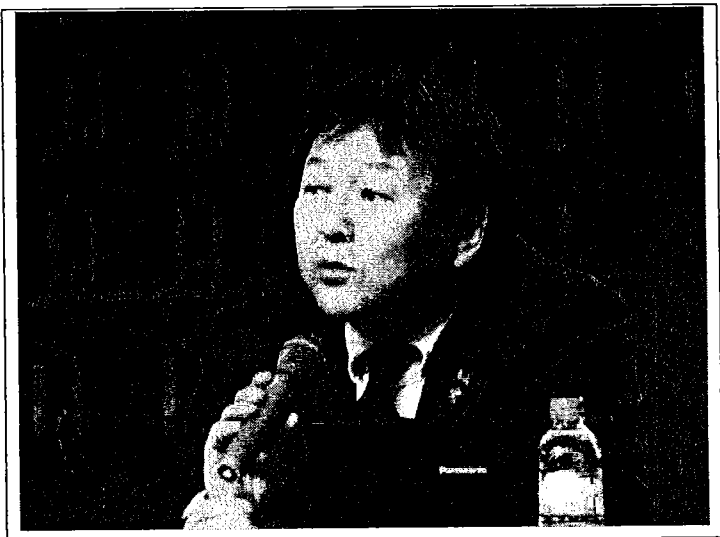
中塚 時間もだいぶ押してきました。残り時間を使って、U-18 フットサルの “これから” について話をしたいと思います。

まずはじめに、この大会の “これから” について、松崎さん、大立目さん、岩本さんから、希望や観測も含め、お話していただければと思います。

松崎 この大会ということであれば、いまの九州の話もそうですが、いろんなところで予選が始まっている、またその機運があります。日本サッカー協会フットサル委員会としては、9地域のフットサル委員会に対して「この大会の予選をやってください」という話を行なっているところです。「全国大会に繋がらないとモチベーションが上がらない」という話がありましたが、この大会に繋がっている大会を各地で開いてもらえれば、モチベーションが上がります。高校生にとって「一生懸命フットサルをやろう」「全国大会に行こう」というような大会にしていかなくてはいけないと、我々は思っています。そうすれば今度は、高体連などの団体が、我々の方に目を向けてくれるのではないかなと思っています。



大立目 私は運営する側として、やはり予選の話も含めて、どのタイミングが一番出場しやすい時期なのかを考えないといけないと思っています。全国各地を訪問した中で、U-18の大会についての意見をお伺いしました。そこで、全国大会を開催する時期として、3月が一番いいのか、それとも他がいいのか、ということについて様々な意見がありました。「誰をターゲットにしていけば、予選も含めて参加チーム数が増えていくのか」「出場しやすい時期とはいつだろう」ということを考えないといけないと思っています。



それと、運営面だけでなく、大会をやる以上、プレーの質を上げる努力を常にしていかないとダメなのかなと思います。今日の開会式でもお願いしましたが、大会の目的、目標がどこにあるのかということをつえながら、全体のレベルを上げていくということを考えないといけないと思います。

岩本 私が言いたいことはお二方が言われたので、少し違う観点から、私の希望的意見を述べさせていただきます。是非この大会からFリーガーが出るような大会にして欲しいと思います。この時期は、Fリーグもシーズンオフになっていますし、各チームもオフになっています。チーム関係者も少し休みされる時期かもしれません。そこで是非、10チームあるFリーグのスカウトマンに来ていただき、将来の自分のチームにフィットしそうな金の卵を見つけられるような、そういう大会にして欲しいと思います。

ということで、「全国大会に行くぞ」というモチベーションだけでなく、この場に来ると「Fリーグのスカウトの目に留まるぞ」という別の観点からも大会が盛り上がればと思います。関係者の方がもしいらっしゃれば、「良い選手がいるかもしれないよ」ということをお話ししていただいて、是非この大会からFリーガーが誕生するような大会になればと思います。



中塚 ありがとうございます。それぞれの立場からこの大会の今後について思いを語っていただきました。

2. U-18フットサルの“これから”

中塚 ここから先は、会場の皆さんも含めて、U-18フットサルの“これから”について議論したいと思います。この大会に限らず、U-18年代のフットサルをどのようにしていったらいいのかということに関するご意見、ご要望、アイデアなどを自由に出してもらえたらと思います。スライドには、考える際のヒントと言いますか、このような観点でU-18フットサルの“これから”を考える切り口を示しました。例えば“いつ”ということであれば、先程大立目さんも言われましたが、例えば「この大会をいつ開催するのか」「そうすると予選はいつになるのか」「そもそもシーズンはいつなのか」「リーグ戦を地域でやる時には何曜日にやったら出場しやすいのか」、あるいは「どの時間帯にやればいいのか」ということなどがあります。

“どこで”という話になりますと、東京では、先程もお見せしましたが、FA主催大会は体育館でやることにしているのですが、熊本の例ではスポーツコートでやっています。本来フットサルは体育館種目ではありますが、体育館はバレーやバスケやバドミントンの人たちが占拠していますのでなかなか使えません。このような状況の中で「われわれはどこでやるフットサルを『フットサル』と言うのか」ということになります。

“誰が”ということもかなり大事なことで、フットサルを高校生あたりから専門的にやりたい子はやってくればよいですし、サッカー部をドロップアウトした子の受け皿にもなれるでしょうが、その一方で、「サッカー部でサッカーをバリバリにやっている子たちにフットサルを経験してもらうにはどうしたらいいのだろうか」という観点も必要です。おそらくそういう子たちの中にも、フットサルのタレントが大勢いると思います。先程のシーズンの話にも関係してきます。「どこにフットサルシーズンを持ってくれば、サッカーをやっている人も出られるのだろうか」ということです。

「U-18フットサル」のこれから

■いつ？

シーズン（は）？ → サッカー（既存の競技会）とどうすり合わせるか
曜日（は）？ 時間帯（は）？ → リーグ戦を行う際に調整が必要

■どこで？

体育館？ 人工芝？ → 学校体育館をどうやって開拓するか

■誰が？

サッカー部員？ フットサルに特化？
「U-18」とは誰のこと？（高校生？ 第2種？ 18歳未満？ 以下？）

■何を？ = 「フットサル」にはどのような条件が必要？

ボール？ ルール？

■どのように？

公と私の違いは？ 担い手（組織）は？ 高体連との関係は？³⁹

そして“何を”、つまり「『フットサル』というためには何が条件なのか」です。ボールなのか、ルールなのか、その場合のルールに関して、この大会はプレイングタイムでやっていますが、運営のことを考慮すればランニングタイムにせざるを得ないこともあるでしょう。「ランニングタイムはフットサルではない」と言う人もいるかもしれません。どこまで許容されるのかということです。

“どのように”ということに関しては、公（おおよげ）と私（わたくし）の問題が含まれます。責任の所在、担い手の問題、それから高体連との関係など、色々な切り口があると思います。

残り時間は少ないですが、皆さんから、ご質問も含めてで構いませんので、ご意見等いただければと思います。いかがでしょうか？

大友 何度もすみません。今回U-18フットサルトーナメントに参加させていただきました。私自身はいつの日か「全日本ユース（U-18）フットサル大会」という大会が開かれるものだと思ってきました。U-18フットサルトーナメントと全日本ユース（U-18）フットサル大会はどちらか一方だけの開催となるのでしょうか。私は都合の良いように物事を捉える方なので、今後この高校生年代は、3月にはU-18フットサルトーナメントがあって、サッカーのチームもどんどん出てきます。PUMA CUP という一般男子の全日本選手権大会には、JFL所属などのサッカーチームはそんなに参加していないのではないかと思います。U-18フットサルトーナメントが持っているすごい可能性を感じております。高校サッカーの強豪も出るし、フットサルを専門とするチームも出るという中で、本当に面白い大会を作っていくのではないかなという印象を持っております。日本協会主体で行なう全日本U-18大会、これはこれで開催されるものだと思って毎年やっております。



時期がいつになるかということに関しては、個人的には1月、もしくは12月などの時期にやってもらえたらと思います。神奈川では全日本U-18大会の県予選を8月にいつでもやれるつもりで、毎年夏に神奈川県ユースフットサル大会を行なっております。

話は変わりますが、今後この大会に高校3年生は出場していただけるのでしょうか。日本ウェルネスさんは昨年、高校3年生が主体で参加したと思います。学校のクラブとしては「高校3年生を連れて行っていいものかどうか」とものすごく悩みました。なぜなら、もう卒業式も終わってしまっていて、学籍はあるのかということが大きな問題になるのです。けれど私は、申請書類を提出して連れて来てしまいました。今日は5名の高校3年生が参加しています。ただ、この大会が大きくなっていくほど、この問題は学校にとっては大きな問題になっていくと考えます。それでも、クラブチームであれば問題なく高校3年生が参加するでしょうし、むしろ高校3年生の、サッカー部で選手権を終えた子たちがどんどん参加するような、レベルの高い大会になってくれればなと思っています。

U-12 や U-15 の全日本ユース大会は何度か見たことがあるのですが、すごくレベルが高かったです。それで、彼らがこのままフットサル大会に参加し続けてくれれば、きっとこのFリーグというトップリーグのレベルももっと上がっていくのではないかなと思います。全日本大学フットサル大会ももっとレベルが上がっていくのではないかなという色々な期待を持っております。

今日ここに来て、こういった場でこういった思いというのを伝えておきたいということで、発言させていただきました。質問になっておりませんが、高校生の全国大会が年2回開かれることが実現されればという期待をもっております。

中塚 松崎さん、大立目さんから、今のご意見に対してコメントはありますか？

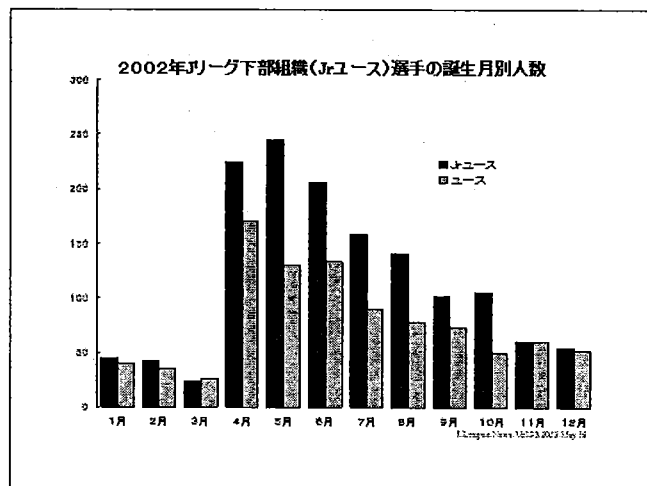
大立目 特に学校のチームにとっては、卒業式が終わるとというのは1つの大きなポイントだと思います。それに関してはおっしゃる通りで、その点ではどの時期にやると皆さんがやりやすいのかという、12月、1月の高校選手権ぐらいの時期に一緒にやってしまうのがいいのかということになります。これはU-18だけじゃなくて、U-12やU-15の大会でも同じようなことが話されていて、年間のグランドデザインも含め、どの時期にどうやっていくのか一番いいのかという話をフットサル委員会やフットサル連盟でしています。そういう意味ではぜひ皆さんから意見を出していただいて、松崎さんたちとしっかりと考えていきたいなと思っています。

松崎 いつやるのかという問題は、高校生、U-18のプレーヤーもそうですけど、場所の問題であったり、サッカーとの兼ね合いもあるわけですから、しっかりと皆さんと一緒に考えていかないと難しいのかなと思います。ただ、3月というのは面白い時期ではあると思いますので、今後も大会期間のひとつとして考えていきたいと思っています。

中塚 これは英語の解釈の問題かもしれませんが、U (Under) -18と言うと、本当は18歳になる前ですよ。ですから18歳の誕生日を迎えたら、もうU-18とは言わないわけで、誕生日の問題でもあります。日本の場合は色々なことが学校をベースに展開しているんで、こういったことが起きるわけですね。

スライドのデータは少し古く、10年ほど前のものですが、数年前に、高円宮杯U-18全日本サッカー選手権大会出場チーム登録選手の誕生日を調べたら、もの見事に4月を頂点としてそこから右肩下がりになり、1~3月生まれがものすごく少ないという、これと同じデータが得られました。なぜこういったことが起きるのかというと、学年で進行するからです。小学生の頃から4月生まれの子と翌年3月生まれの子が同じ教室の中、同じチームの括りの中にいるのが学年進行の特徴です。4月生まれの方が約1年、育ちが早いわけで、学年でチームを組むと、低学年であればあるほどこの差が大きく影響する。4~6月生まれの子は、先発メンバーとして試合経験を多く積むことができ、逆に1~3月生まれの子たちは試合経験が得られないまま、そのうちサッカーから離れていっているのではないかと思います。

じゃあどこで区切ったらいいのか。違うところで切ってしまうとその区切ったところを頂点とした右肩下がりになると思います。そういう意味では、例えば誕生日が来たら、その年代から「追い出す」というような考え方があるでしょう。水泳などの個人種目ではすでに採用されている方法です。そのようなやり方を、例えばフットサルがサッカー界で先駆的に導入するのもいいのではないかと思います。



ちなみに先程から紹介している東京都の大会は、大会最終日時点で18歳以下の者が出場できるようにしています。つまり1月の大会は、19歳にならない大学1年生も出場できます。まあ、これは英語の正しい解釈とは異なりますが、こういうのも1つの試みかなと思います。

学校の縛りの上に乗ってしまうと、卒業式後の高校3年生までは面倒を見られないという問題が出てきます。これは純粋にスポーツ的に、年齢やレベル、地域などで考えていけば、そういう問題もクリアされるのではないかと思います。

他の方はいかがでしょうか？

本多 今日参加していただいている中で、お二人にご発言いただきたいと思います。1人は大阪成蹊大学の柴沼真先生で、色々と育成についてお話していただきたいのと、あとは日本最年長のサッカーライターの賀川浩さんです。90年前の高校サッカーのはじまりはさすがに見ていらっしやいませませんが、今回88歳で、こうしてU-18のフットサル大会が誕生するところを見ていただいていることをうれしく思っています。

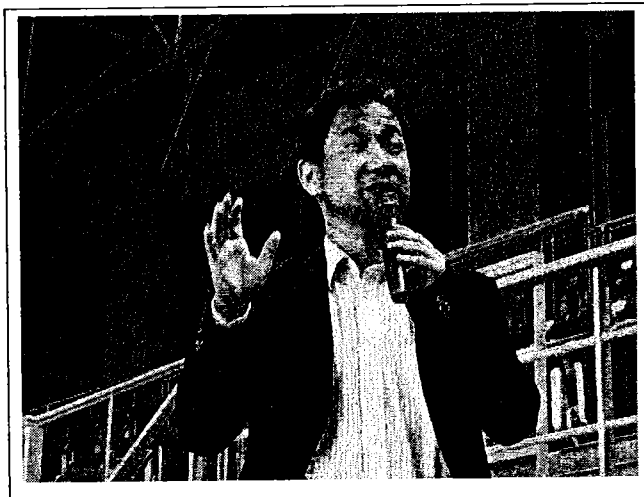
柴沼 真 (日本サッカー協会フットサル委員会委員・大阪府大学フットサルリーグ運営委員長・大阪成蹊大学准教授)

こんばんは。ご紹介に与りました大阪成蹊大学の柴沼と申します。普段は日本サッカー協会のフットサル委員会の委員をやっており、あとは今もそうなのですが、指導者養成のフットサルC級ライセンスのインストラクターと、日本サッカー協会のフットサルの指導者養成のワーキンググループの中で働いています。

今回、せっかくU-18の選手の方もいるので是非知っておいて欲しいことがあります。実は世界的なサッカー選手、例えばメッシ選手やインiesta選手、シャビ選手、ビジャ選手、ピケ選手は、みんなフットサル出身だということなんです。これはミゲル・ロドリゴ監督(フットサル日本代表監督)が言っていることですが、18歳までサッカーしかやったことのない選手と、フットサル、あるいは7人制サッカーなどのスモールフットボールを通して18歳になった選手とボールタッチの数がどれくらい違うかということ、大体6~7倍違うと言われていています。つまりフットサルをやった方が遥かに選手としての引き出しが増えてくるということです。そういう意味で、フットサルというのは実は、サッカー選手を育てるのにも非常に有益ですし、もちろんフットサルの選手を育てるのにも非常に有益だということがあると思います。

多くの方々が誤解されているのは、少し専門的な話になってしまい恐縮ですが、「フットサルをやると技術がつく」とよくおっしゃいます。でも、専門的な立場から言うと、それは半分正解ですが、半分間違っています。技術がつくのではなくて、自分の持っている技術を、相手が近くにいるという状況の中でいかに正確に発揮するのかという「技術発揮能力」が高まるわけです。専門的には「個人戦術」と呼びます。なので、サッカーをやるにしてもフットサルでそのまま進んでいくにしても、フットサルをやるというのは選手として伸びていくのにとっても重要だということをは是非知っておいて欲しいです。

ただ一方で、フットサルだけで育って来た選手というのは、どちらかというとも高校サッカーを経験された選手よりも特にフィジカルコンタクトの面、つまり身体をガンと当てられた時に踏ん張れる能力が若干弱い傾向にあるのかなと思います。そういう意味で言うと、U-18の大会が高校サッカーの選手、あるいはクラブチームで普段サッカーをやっている選手、そしてフットサルを専門でやっている選手によって色々と戦われるのは非常に意義が深いのではないかなと思います。



その中で、やはり高校サッカーの選手たちは、自分たちがサッカー部に戻った時にここで獲得したことを発揮すれば良いし、あるいはフットサルの選手たちはここで得た自信や、こういうところが足りないなどということを読んで、先程、岩さんがおっしゃられていましたが、Fリーグに挑戦するためのきっかけとしてこういうところを使っていければいいのではないかなと思います。

そういう意味で、少し長くなりましたが、最後に是非もしお聞かせいただければと思うのは、サッカーの方の高体連やクラブチームなどにもっとも「フットサルというのはそういうように有益なものなんだ」「是非皆さん積極的に参加しようよ」ということを伝える方策があれば、皆さんのお知恵を聞かせていただければと思います。以上です。

中塚 いかがでしょうか。高校生年代のサッカーをやっている人たちに対して「フットサルはいいよ」というように啓蒙していく方策についてですが。

松崎 私はあまりフットサルだけというのは信じてなくて、先程もメッシの例が出ていましたが、要は両方やっていたのだと思います。ですから、我々フットサル関係者がフットサル至上主義にならないということがすごく大切なことだと思います。サッカーのことも理解し、フットサルのことも理解し、フットサルの優位点や高校サッカーをやっていた人のフィジカルの強さというのもおっしゃっていたじゃないですか。そういうところも両方理解して、皆さんのフットサルに対する理解力を深めるということが大切だと思います。

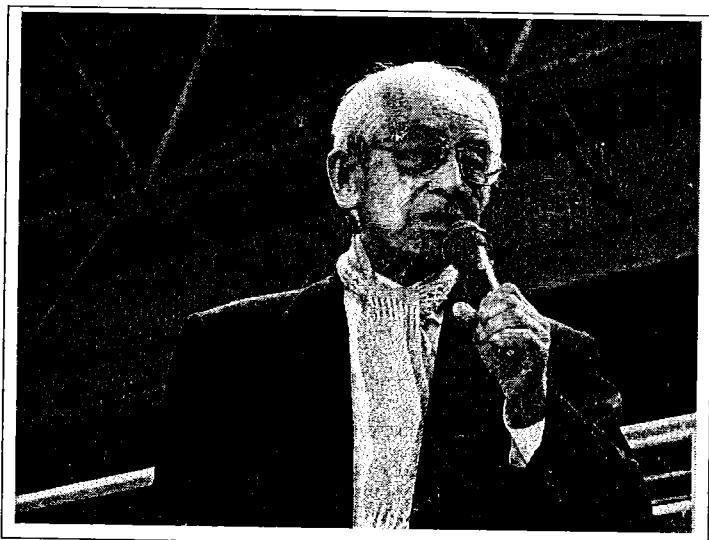
もう一つ必要なことは、環境整備の問題なのかもしれませんが、高校生だけでなく、フットサルを専門にやっている名古屋オーシャンズU-18のチームとか、もしかしたら専門学校でも良いかもしれません、私学の先生方を集めて「フットサルを勧めましょう」と、参加者を多くして理解を深め、「サッカー側の選手がフットサルでやることは非常に素晴らしいことですよ」ということを広めていくことが大切なのかなと思います。

中塚 いま話を聞いていて思い出したのですが、私も東京で高体連サッカー専門部の委員をしているのですが、毎年4月初めに総会があって、毎回私は東京都でフットサルの大会をやっているということを高体連の「部活命」の先生方に説明しています。これまではほとんど反応がなかったのですが、去年4月の総会で、「実は東京都でやっていたのがこんなに広がって、オーシャンアリーナでこんな大会をやって、作陽高校と名古屋オーシャンズU-18が決勝戦をやった」という話をすると、俄然「部活命」の先生方の目が輝いてきて、「作陽がフットサルをやっているのか」「俺たちもフットサル大会に出られるのか」と、前向きなご意見をいただきました。出てもいいということは前から言っているのですが、ネームバリューのある学校が関わっていることを教えてあげると、部活の先生方もわかってくれるようです。もしかしたら、そういう草の根の活動というのも大事なのかなとふと思いました。

それでは、本多さんからご紹介があり、私からも是非コメントをいただきたいと思って賀川浩さん、お願いします。

賀川 浩 (サッカーライター) サッカーやフットサルの大好きな人たちの集りで、白熱した話がたくさん出て、大変興味深く聞かせていただきました。もちろん、皆さんがおっしゃったように、サッカーとフットサルのそれぞれが補い合い、両方で新しい技術がどんどんと進化していこうと思います。

それとは全然違う話ですが、最近の私たちの年寄りの中で、体罰や、そしてまたそれが柔道



にまで及んだという、色々な指導者がスポーツの腕を上げるために暴力を振るう、殴るという話があって、いささかびっくりしました。私どももサッカーではそういうことは全くないものだと思っていました。まだどこかであるかもしれませんが、サッカー全体としてはそういうことはないだろうと今でも思っております。というのは、日本のサッカーは、1960年にデットマール・クラマーが来て、指導法も色々その頃からやってくれましたけど、それもあって完全にグローバル・スタンダードなんですね。日本のスポーツの中でサッカーというのは、いまでもJFAが先頭に立ってやっておりますが、考え方としましては、最もデモクラティックでスポーツ的な団体だというように思っております。もちろん、人によっては色々なクセがありますから、色々なことを言う人もいますけど、組織としてはそういうふう運営しています。

その一番のポイントは、登録制度が年齢別ということですね。昔は社会人、学生、つまり中学校、高校、大学、それから社会人というように分けていたわけですね。それを1970年代から年齢別に改めてわけです。それはなぜかという、スポーツをするのに大学や社会人といった社会的な身分で区別するべきではないからです。ですから、高校生というのは今で言うU-18です。日本では中学生は義務教育ですから、U-15であろうと中学生で区切っても良いわけですが、高校に行くのは義務教育ではありませんから。例えば中学校を出て、散髪屋さんの弟子に入って散髪の仕事をするとして。そういう人がサッカーをやりたいとなった時に、どこでサッカーをするのかということになります。高校に入っていないければ、高体連のチームに入っていないければ高体連の試合ができません。しかし、中学校を卒業して、サッカーをしたいけどどこにも登録するところがないとなつては困るんですね。そういうことから始まりまして、ヨーロッパと同じように年齢別登録を導入したわけですね。

ですから、U-18ということになります。それは子どもたちが発育していくのに、身体の発育は年齢と共にやってきますから、年齢別に分けてU-18ということになります。世界でも年齢別の世界選手権ができています。それを日本のサッカーが導入したということは、日本サッカーは団体競技において、世界仕様の団体であるということなんですね。ですから、指導にしても、今の日本のサッカーというのは世界とそのまま通じているわけです。

そういうことがあって、U-18という大会に参加されている高校のチームやクラブのチームは「U-18という年齢」で試合をしているわけですね。日本のサッカーが団体競技のスポーツの組織として実現している、このことが日本の他の競技団体にはよく理解されていないんですね。いくらトップにプロを作ってやってみても、根本的な考え方がよくわかっていないのではないかと思います。ジャーナリストのほとんども、なぜこの年齢別でやっているのかということをよくわかっていないものですから、その重要性がまだわからないんですね。

フットサルの全国大会をやるにあたって、U-18ということでは始まったのは、当然のことではあります。特に高体連の中軸の先生がそういうことを言っておられるのは非常に感心している次第です。そういう意味もあって、この大会がどんどんこれから上手く運営されて進んでいくようになると思います。

最後になりますが、試合を見させていただきました。年々皆さんの技術が上がっていると感心しております。どうもありがとうございました。

中塚 どうもありがとうございます。私が申し上げたかったことを、もっと重い言葉でご説明いただきました。U-18ということにはすごく意味があり、大事なことで、われわれも大切にしていけないといけませんし、われわれだけでなく、他の種目の人たちにもどんどん発信していけないといけない考え方なのだなということを再認識致しました。

残り時間がなくなりました。最後に、演者の皆さんからシンポジウム全体を振り返って、そしてU-18の“これから”という観点でコメントをいただければと思います。岩本さんから順番をお願いします。

岩本 これからのU-18ということで、最後の締めとして私の思いを。先程もおっしゃったように、高校などと間口が狭くなるような話ではなく、高校を辞めた子どもたちや、高校の部活に入っていない子どもたちなど、U-18のカテゴリーに入っている子どもたちであればいつでもどこでも誰とでもフットサルができるというところで、

是非今後ますます競技人口が増えればよいと思いますし、リーグ創設にしても、熊本ができたのだから他の県、他の地域でやれないことはないというように私はいつも思っています。是非、U-18のリーグが全国各地で開催されることを切に祈って最後の挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございます。

大立目 まだまだ整理しないといけない課題はたくさんあると思うのですが、やはり近い将来、JリーグやFリーグでプレーする可能性のある高校生年代の強化や育成をする機会、場の提供を、私の立場としてはこれからも進めていきたいと思っています。とりあえず、大会としてはスタートすることができましたので、課題を克服しながら次のステップをどう歩んでいくのかということ、また皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。今後ともまたご協力をよろしくお願ひしたいということで最後の挨拶としたいと思います。ありがとうございました。

松崎 色々な方が、様々なことをフットサルのためにおっしゃっていただいたのですが、フットサルというのは狭いピッチでやります。判断力が速くないといけなとか、アジリティを高めないとイケません。高校や中学でも小学生でも良いんですが、サッカーのトッププレーヤーにとっても必要な競技だと思ひます。一方、サブのプレーヤーにもプレーの機会を提供したり、少子化の問題で「1チーム11人は作れないのでフットサルに行きましょう」というのも良いと思ひます。更には、名古屋オーシャンズだけでなく、フットサルをやっている高校生も実際にいるので、その子たちにも機会を提供すること。

そしてもう1つ大切なのは女子ですね。女性のフットサルプレーヤーや、女性にもボールを蹴る機会を提供したいと思ひます。そのためには、先程言った責任ある人の引率が20歳未満の子供たちにとっては必要なので、いかに環境を整備するのか。そして公立高校ではだめというなら、まずは私学のチームにお願ひする。様々な方法を駆使してU18年代がフットサルをプレーできる環境整備をする。鶏が先か卵が先かという問題もありますが、多くのチームが参加できるように我々が頑張らなければいけないと思ひます。たくさんのチームが参加すれば、現在主催や後援が難しいとしている高体連が動いたり、色々なところが動き、そういうような相乗効果を持たせるように、JFAのフットサル委員会としても今後進めていきたいと思ひます。

中塚 ということで、予定されていた時間が経過しました。「U-18フットサルを語ろう！」ということではまだまだ語りきれないのですが、これを一つのきっかけとして、語る場を広げていきたい、そしてプレーする仲間をもっと広げていくきっかけとなればと思ひます。

特に今日来てくれた高校生諸君、頑張ってください。明日頑張るだけでなく、これから先も頑張ってください。

以上で、シンポジウムを終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

スポーツで“ゆたかな暮らし”を

意識を変え、習慣を変えよう!

はじめれば、はじまる!

最初の一歩を踏み出そう!

続けることにエネルギーがいる

続けるためには、ぶれない“理念”“志”を!

50